

昭和42年度

地力保全基本調査成績

〔日高北部内陸地域 穂別町〕

北海道立中央農業試験場

56

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和42年度に行なつた9地域12市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和43年3月

北海道立中央農業試験場

三 島 京 治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課)による。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	長谷部	俊雄
土壌改良科	科長	後藤	計二
”	第1係長	小林	荘司
”	研究職員	高尾	欽彌
”	”	菊地	晃二
”	”	水元	秀彰
”	”	伊東	輝行
”	”	坂本	宣崇
”	”	小林	茂

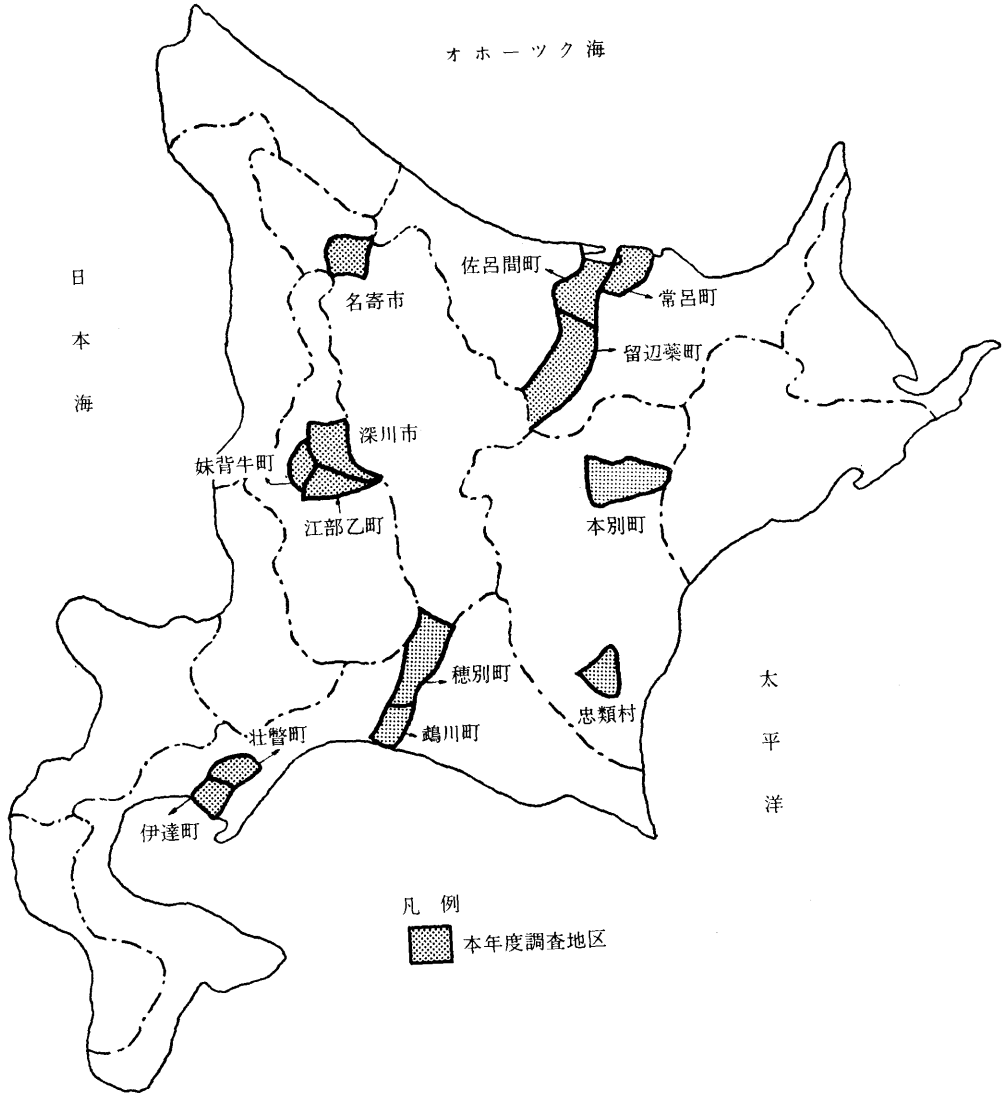
主に化学分析を担当した職員

研究職員	宮脇	忠
”	木村	清
”	松原	一実
”	上坂	晶司

1. 調査地域一覽

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝東部	中川郡本別町	108	9,972	—	270	108	9,702
十勝中部	広尾郡忠類町	—	3,688	—	—	—	3,688
佐呂間湖畔	常呂郡常呂町	55	4,335	—	1,223	55	3,112
	常呂郡佐呂間町	808	5,756	808	2,147	—	3,609
北見	常呂郡留辺蘂町	467	3,605	—	—	467	3,605
芦別	深川町	7,377	2,530	2,352	—	5,025	2,530
	空知郡江部乙町	2,380	1,091	175	240	1,590	851
上川北部	名寄市	1,590	4,163	—	2,465	866	1,698
洞爺湖畔	有珠郡伊達町	866	4,873	—	—	260	4,873
	有珠郡壮瞥町	260	1,655	—	—	417	1,655
日高沿岸	勇払郡鷓川町	2,557	768	2,140	—	925	768
日高北部内陸	勇払郡穂別町	1,127	1,007	202	—	—	1,007
空知北部	雨竜郡妹背牛町	3,249	215	—	—	—	—
合計		20,844	43,658	5,677	6,345	11,918	37,098

調査地区位置図



日高北部内陸地域 穂別地区

1. 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 胆振支庁管内、勇払郡穂別町

(2) 調査面積

郡市町村名	農地総面積 (ha)			調査対象面積 (ha)			既調査面積		
	水田	普通畑	計	水田	普通畑	計	水田	普通畑	計
勇払郡穂別町	1,127	1,007	2,134	1,172	1,007	2,134	202	0	202

郡市町村名	本年度調査面積			次年度以降調査面積		
	水田	普通畑	計	水田	普通畑	計
勇払郡穂別町	925	1,007	1,932	0	0	0

2) 気象

三方を日高山脈に包囲されているため、気候は大陸性を帯び寒暑の差が甚だしい。しかしながら年間を通じ快晴多く積雪量、雨量は少ない。

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	全年
	気 平 均		6.9	10.9	15.2	20.0	22.3	16.8	3.9	-3.2
温 最 高 平 均		12.6	19.0	21.9	25.9	27.7	23.2	17.0	8.6	13.8
(0.1℃) 最 低 平 均		1.2	2.8	8.4	14.1	16.9	10.4	2.8	-3.7	0.6
降 水 量 (mm)		101	97	87	114	140	149	112	89	1,084

(平均気温 7.0℃、年平均降雨量 1,084mm)

3) 土地条件

(1) 地 形

三方を日高山脈に囲まれ、南北に細長く発達した狭在なる沖積地帯と、それに接する洪積台地からなっている。沖積地帯は鶴川、穂別川沿いに発達しており、特に南の一方は鶴川沿いに発達している。鶴川はその水源占冠村より本町字福山に入り、富内を経て穂別川と同流し、本町の中央を貫流し鶴川町に至る。沖積地帯は主に水田化がなされ、洪積台地は畑作がおこなわれている。

(2) 地 質

土壌は全域樽前火山の噴出物で覆われた火山性土で、その厚さは1～2mと厚く堆積し、特に上層は噴出時期の新しい火山灰砂層からなっている。これら火山灰は降灰年次により調査区分されているがその概要を表層から示すと次の如くである。

樽前火山灰a層 (Ta-a層と略記) 1～2mm内外の砂層で、穂別町全域に降灰しているが、耕地では他の火山灰と混合し、判別がしにくい。

樽前火山灰b層 (Ta-b層と略記) 1～5mm内外の軽石層で、穂別町全域に降灰している。

樽前火山灰C1層 (Ta-C1と略記) 1mm内外の砂層で上記の火山灰層より粒形が細かく、腐植の集積が多い。全域に降灰堆積している。

樽前火山灰d層 (Ta-dと略記) 主に穂別町市街から北部に存在し、腐植層と腐朽した浮石層を

持っている。

(3) 侵蝕状況

傾斜～緩傾斜の所では水蝕の被害が大きい。これは土壌が粗粒で排水良好なためである。

4) 土地利用及び営農状況

勇払郡穂別町

a) 耕地面積

総面積	水田	畑	農家一世帯当総面積
1,762.6	989.1	773.2	3.31

b) 農家数、農業従事者数

農家数				従業者数			
総数	専業	兼業	自給	世帯員	常雇	季節雇	日雇(延)
662	222	290	150人	1,858	11	2	19,774

c) 家畜飼養農家数・頭羽数

	牛	馬	豚	めん羊	にわとり
農家数	18	395	310	54	240
頭羽数	48	506	670	67	4,229

d) 主要農作物付面積・収穫量

作物名	水稲	小麦	エン麦	小豆	馬鈴薯	ビート
作付面積 (ha)	1,030	5	103	150	94	21
10a当収量 (kg)	273	104	187	142	1,610	2,470

2. 土壌の類型区分及び説明

1) 土壌統及び土壌区一覽

(1) 土壌統一覽

水田

土壌統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性	
					表土	次層
和泉南	YR/N	表層腐植層なし(埋没層あり)	あり	なし	壤質	壤質
富内	Y/YR	表層腐植層なし	なし	"	"	強粘質
二俣	Y/YR	"	"	"	"	"
采東	Y/YR	"	あり	あり	粘質	砂質
稲台北	Y/Y	"	なし	なし	壤質	強粘質
仁和西	Y/Y	"	あり	あり	粘質	壤質
豊田西	Y/Y	"	"	"	壤質	礫質
豊田	Y/Y	"	なし	なし	強粘質	強粘質
和泉	Y/Y	"	あり	あり	粘質	砂質
穂別南	Y/Y	"	"	"	壤質	粘質
東雲西	Y/Y	"	"	なし	砂質	礫質
豊田東	Y/Y	"	"	"	粘質	礫質
安住	Y/Y	"	あり	なし	壤質	礫質
富内南	GY/GY	"	なし	あり	粘質	強粘質

土壌統名	泥炭	黒泥	グライ	母材堆積様式	施肥改善土層類型
和泉南	なし	なし	なし	非固結火成岩／風積	H. 7 1
富内	"	"	"	非固結水成岩／洪積	I. 8 2
二俣	"	"	"	非固結水成岩／水積（河成）	G. 6 0
栄東	"	"	"	"	K. 9 4
稲台北	"	"	"	非固結水成岩／洪積	I. 8 1
仁和西	"	"	作土直下のみ	非固結水成岩／水積（河成）	K. 9 3
豊田西	"	"	なし	"	K. 9 4
豊田	"	"	"	"	G. 6 0
和泉	"	"	作土直下のみ	"	G. 6 4
穂別南	"	"	なし	"	G. 6 1
東雲西	"	"	作土直下のみ	"	K. 9 4
豊田東	"	"	なし	"	J. 9 1
安住	"	"	"	非固結水成岩／（扇状堆土）	K. 9 5
富内南	"	"	27 cm 以下	"	E. 4 0

畑

土壌統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性	
					表土	次層
隆農南	YR/YR	表層腐植層なし(埋没土層あり)	あり	なし	砂質	壤質
稲里	YR/YR	表層腐植層	なし	"	壤質	"
和泉下	YR/YR	表層腐植層なし(埋没土層あり)	あり	"	砂質	礫質
隆農	YR/YR	"	"	"	礫質	砂質
仁和下	YR/YR	"	"	"	砂質	"
豊田南	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	壤質	"
似湾沢	YR/Y	"	"	"	砂質	礫質
平丘	YR/YR	表層腐植層(埋没土層あり)	"	"	壤質	砂質
富内西	YR/Y	表層腐植層なし	なし	"	砂質	粘質
二俣南	YR/Y	"	あり	"	粘質	礫質
仁和	YR/Y	表層腐植層なし(埋没土層あり)	"	"	砂質	礫質

土壌統名	泥炭	黒泥	グライ	母材堆積様式
隆農南	なし	なし	なし	非固結火成岩／風積
稲里	"	"	"	"
和泉下	"	"	"	"
隆農	"	"	"	"
仁和下	"	"	"	非固結火成岩／風積 非固結水成岩／洪積
豊田南	"	"	"	非固結水成岩／水積（河成）
似湾沢	"	"	"	"
平丘	"	"	"	非固結火成岩／風積 非固結水成岩／崩積
富内西	"	"	"	"
二俣南	"	"	"	非固結水成岩／扇状堆土
仁和	"	"	"	非固結火成岩／風積 非固結水成岩／崩積

(2) 土壤区一覽
水 田

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
和 泉 南 一 和 泉 南	II <i>lfn</i> a	16.0	
富 内 一 富 内	II <i>fn</i>	25.0	
二 俣 一 二 俣	II <i>fn</i>	21.0	
栄 東 一 栄 東	III <i>l</i> II <i>pfna</i>	68.0	
稻 台 北 一 稻 台 北	II <i>pf</i> n	31.0	
仁 和 西 一 仁 和 西	II <i>pl</i> a	39.0	
豊 田 西 一 豊 田 西	III <i>l</i> II <i>a</i>	43.0	
豊 田 一 豊 田	II <i>pf</i>	385.0	
和 泉 一 和 泉	II <i>lfn</i>	100.0	
穂 別 南 一 穂 別 南	II <i>lfn</i> i	219.0	
東 雲 西 一 東 雲 西	III <i>l</i> II <i>n</i>	22.0	
豊 田 東 一 豊 田 東	III <i>dl</i> iII <i>pf</i> n	82.0	
安 住 一 安 住	III <i>n</i> II <i>dlf</i>	45.0	
富 内 南 一 富 内 南	II <i>prf</i> na	31.0	

畑

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	畑面積 (ha)	備 考
隆 農 南 一 隆 農 南	III <i>ne</i> II(<i>w</i>)	109.0	
稻 里 一 稻 里	II (<i>w</i>) <i>n</i>	47.0	
和 泉 下 一 和 泉 下	III (<i>w</i>) <i>e</i> II <i>n</i>	98.0	
隆 農 一 隆 農	III <i>e</i> II(<i>w</i>) <i>ni</i>	225.0	
仁 和 下 一 仁 和 下	III (<i>w</i>) <i>e</i> II <i>fna</i>	59.0	
豊 田 南 一 豊 田 南	II <i>g</i> (<i>w</i>) <i>ta</i>	15.0	
似 湾 沢 一 似 湾 沢	III (<i>w</i>) <i>e</i> II <i>tna</i>	29.0	
平 丘 一 平 丘	II (<i>w</i>) <i>nt</i>	62.0	
富 内 西 一 富 内 西	III <i>e</i> II(<i>w</i>) <i>fn</i>	59.0	
二 俣 南 一 二 俣 南	II <i>gp</i> (<i>w</i>) <i>f</i>	43.0	
仁 和 一 仁 和	III (<i>w</i>) <i>fe</i> II <i>tn</i>	261.0	

2) 土壤統別説明
水 田

和 泉 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ16cm内外、腐植含量2.8%内外、土性はSLが主である。色は10YR、彩度2、明度4前後である。粒状構造で、ち密度19で中程度、可塑性、粘着性は弱である。糸状、糸根状、膜状

の酸化沈積物有り～含む。第1層は客土と思われる。調査時の湿めり湿。下層への境界不規則である。

第2層の厚さ約5cm前後。腐植含量2.9%前後。土性はLSが主である。色は10YR、彩度1、明度2前後。構造は単粒状。湿めり湿。下層への境界明瞭。Sは樽前火山降下物と思える。

第3層の厚さ約1.8cm前後。細半角礫(浮石)からなる砂礫層である。色は2.5Y、彩度2、明度6前後。ち密度1.7で中。湿めり湿。下層への境界明瞭。

第4層の厚さ1.5cm内外、腐植含量1.5.3%内外。土性はSCLが主である。色はNで、明度1である。構造は均質連結状で、ち密度1.5で中。可塑性、粘着性弱。調査時の湿り潤。下層への境界漸変。これは樽前火山降下物と思える。

第5層の厚さ1.0cm前後。腐植に富み、土性はSLが主である。色は10YR、彩度3、明度2前後。構造は均質連結状で、細小中孔あり。可塑性、粘着性弱。調査時の湿めり潤。下層への境界漸変である。

第6層は約6.3cm以下で、腐植に頗る富む前後で、土性はLが主である。色はN~10YR。彩度0~1。明度1~2程度である。構造は均質連結状で細小中孔あり。可塑性、粘着性は弱程度である。調査時の湿めり潤。

代表的断面形態

(所在地) 勇払郡穂別町和泉 試抗地点 5

第1層	0~1.6 cm	腐植を含む灰褐(10YR4/2)のSL。粒状構造。ち密度1.9で中、可塑性、粘着性弱、糸状、糸根状、膜状の斑紋含む。pH(H ₂ O)6.2 湿めり湿、境界不規則。
第2層	1.6~2.1 cm	腐植を含む灰褐(10YR2/1)のLS、粒状構造、ち密度1.3で中、湿めり湿、pH(H ₂ O)6.2、境界明瞭。
第3層	2.1~3.2 cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y6/2)のS、細半角礫(浮石)含む。ち密度1.7で中、湿めり湿、pH(H ₂ O)6.5、境界漸変。
第4層	3.2~3.9 cm	腐植を欠く砂礫層である。礫は細半角礫(浮石)色は灰褐(2.5Y6/2) 湿めり湿、境界明瞭。
第5層	3.9~5.4 cm	腐植に頗る富む黒色(N1/0)のSCL、均質連結状構造、細小孔あり ち密度1.5で中、可塑性、粘着性弱、pH(H ₂ O)6.0、湿めり湿、境界漸変。
第6層	5.4~6.3 cm	腐植に富む灰褐(10YR2/3)のSL、均質連結状構造、細小中孔あり。可塑性、粘着性弱、湿めり潤、境界漸変。
第7層	6.3~8.4 cm	腐植に頗る富む黒色(N1/0)のL、均質連結状構造、細小中孔あり、可塑性、粘着性弱、湿めり潤、下層への境界漸変。
第8層	8.4 cm 以上	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のL、均質連結状構造、細小中孔あり、粘着性、可塑性弱、湿めり潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~1.6	2.9	5.95	18.9	13.3	8.3	SL	1.62	0.133	12.2	2.8	6.2	5.2	0.30
2	1.6~2.1	0.5	70.6	20.6	2.9	5.9	LS	1.68	0.144	11.7	2.9	6.2	5.2	0.30
3	2.1~3.2	0.1	87.9	7.1	1.8	3.2	S	—	—	—	—	6.5	5.6	0
5	3.9~5.4	0.1	3.18	30.0	18.0	20.2	SCL	8.87	0.638	16.2	15.3	6.0	4.9	0.60

層位	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	乾土効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	10.5	5.6	2.4	0.1	79.5	79.3	13.4	0.7	2.1	1.4	0.93
2	4.8	2.7	0.01	0.04	58.0	56.6	15.1	3.6	5.1	1.5	0.40
3	5.1	0.6	1.9	0.2	50.1	32.0	18.4	—	—	—	—
5	44.7	1.77	2.7	0.2	49.9	232.2	1.1	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統は下層に埋没層が出現し、堆積様式が風積であることにより他の統と区別される。施肥改善土壌型 H 黒色土壌 71 壤土火山腐植型

A-5 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積

B 地形

緩傾斜

C 気候

年平均気温 7.0°C、年降水量 1,084 mm、内陸性気候で寒暑の差が大きい。

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

E 農業上の留意事項

排水が極めて悪いので、明渠、暗渠が必要であり、表土の土性が極めて粗く、保肥力が良いので、粘土の客土が必要である。

F 分布

勇払郡穂別町和泉に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
和泉南 — 和泉南	II lfna

② 土壌区分説明

和泉南 — 和泉南

示性分級式(水田)

土表有表耕	濕	酸	土	自	養	障	災
壤効土耘	表表	作作	易遊	透保	固土	置有	微酸
生土	土土	土土	化分	濕然	層分	換効	害理
産土の	土の	土の	ラ地	地	の性	態量	害物
力の層	のの	乾透	のの	水水	潤肥	定塩	害質
可能厚	の磔	粘土	のの	のの	沃基	灰土	害質
性厚	含難	土着	硬水	ち密	沃基	灰土	害質
等深	性性	性性	性性	性性	性性	性性	性性
級さ	さ量	易性	性性	性性	性性	性性	性性
②	t d g p	l	r	w	f	n	i a
	I I I I	1 1 1	II 2 2	I 1 2 1	-----	II 2 2 1	II 2 1 3 1 3 2 2 1
簡略分級式	II l f n a						

A 土壤区の特徴

当土壤区は和泉南統に属する。表土の厚さ16cm内外。有効土層1m以上で深い。表土の土性壤質で粘着性も弱く、耕起、碎土が容易である。極めて湿性地帯であり、一時的増冠水の危険が考えられる。保肥力、固定力中、塩基状態良好で、自然肥沃度は中庸である。石灰含量中、加里、有効態窒素少で、土壤の養分は中庸である。

B 植生及び利用状況

水稻単作がなされている。

C 地力保全上の問題点

表土、心土の土性が粗く、ち密度も中～疎であるため透水性が大きい。また保肥力もやや弱いこと、排水が極めて悪いことが、水稻生育の阻害になつているので、明渠の完備、粘土客土の投入が必要である。また併せて、有機物の施用、塩基の補給、珪カル、セオライト、ベントナイト等の土壤改良資材の投入をおこなうことがよいと思える。

D 分布

勇払郡穂別町和泉

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

富 内 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm内外。腐植含量3.1%前後。土性はSLが主である。色は5Y、彩度1、明度3前後。粒状構造で、ち密度10前後で中。可溶性、粘着性中程度、調査時の湿めり半湿、下層への境界明瞭である。

第2層の厚さ7～8cm内外。腐植含量3.7%前後。土性はSLが主である。色は7.5Y、彩度1、明度3前後。構造は均質連結状で、ち密度17前後であり、可溶性、粘着性中程度。調査時の湿めり半湿下層への境界漸変である。

第3層の厚さ約10cm前後。腐植を含む～富む程度。土性はSである。色は5Y、彩度1、明度2～4前後である。構造は単粒状であり、ち密度15前後。調査時の湿めり半乾。下層への境界漸変となつ

ている。

第4層の厚さ約7 cm前後。腐植含量6.6 %前後。土性はLiCが主である。色は10 YR、彩度1、明度2前後。発達中程度の粒状、小塊状構造を呈する。細小中孔に富む。ち密度18前後で中程度。可塑性、粘着性中～強。調査時の湿めり半湿。下層への境界漸変。

第5層の厚さ約7 cm前後。腐植含量2.3 %前後。土性はLiCが主である。色は10 YR、彩度2、明度3前後。発達中程度の小塊状、粒状構造を持つ。細小中孔に富み、ち密度19で中程度。可塑性、粘着性中～強のものが多い。調査時の湿めり半湿。下層への境界漸変である。

第6層は約4.4 cm以下である。腐植がなく、土性はLiCが主である。色は10 YR、彩度4、明度5前後。発達弱度の塊状、小塊状構造を呈する。細小中孔に富み、ち密度19前後で中程度。粘着性、可塑性強が主である。調査時の湿めり半湿。

代表的断面形態

(所在地) 勇払郡穂別町富内 試抗 37

第1層	0～15 cm	腐植を含む灰褐(5 Y 3 / 1)のSL、粒状構造で、ち密度10で中、可塑性、粘着性弱、糸根、糸状の酸化沈積物有り、湿めり半湿、PH(H ₂ O) 5.7、境界明瞭。
第2層	15～22 cm	腐植を含む灰色(7.5 Y 3 / 1)のSL、均質連結状構造で、ち密度17の中、可塑性、粘着性弱、糸根状、膜状の酸化沈積物有り、湿めり半湿、PH(H ₂ O) 6.4、境界漸変。
第3層	22～26 cm	腐植に富む黒色(5 Y 2 / 1)のS、単粒状構造で、ち密度15の中、斑紋無し、湿めり半湿、境界漸変。
第4層	26～30 cm	腐植を含む灰褐(5 Y 4 / 1)のS、単粒状構造で、ち密度15前後、湿めり半湿、境界漸変。
第5層	30～37 cm	腐植に富む黒色(10 YR 2 / 1)のLiC、発達中程度の粒状、小塊状構造、細小中孔富む。ち密度18で中、粘着性、可塑性中、湿めり半湿、PH(H ₂ O) 6.3、境界漸変。
第6層	37～44 cm	腐植を含む灰褐(10 YR 3 / 2)のLiC、発達中程度の小塊状、粒状構造、細小中孔富む、ち密度19で中、粘着性、可塑性中、湿めり半湿、PH(H ₂ O) 6.4、境界漸変。
第7層	44 cm以下	腐植を欠く黄褐(10 YR 5 / 4)のLiC、発達弱度の塊状、小塊状構造、ち密度19で中、可塑性、粘着性强、湿めり半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	Kcℓ	
1	0～15	2.0	60.9	13.2	13.6	12.3	SL	1.80	0.188	9.6	3.1	5.7	4.8	0.60
2	15～22	2.1	59.7	12.7	19.2	8.4	SL	2.15	0.164	13.1	3.7	6.4	5.3	0.30
5	30～37	4.8	19.5	19.9	34.0	26.6	LiC	3.83	0.312	12.3	6.6	6.3	5.2	0.30
6	37～44	4.5	1.0	19.2	42.6	37.2	LiC	1.33	0.159	8.4	2.3	6.4	5.1	0.30

層位	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態りん酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾土効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離酸 化鉄%
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	15.0	4.2	3.0	0.2	50.6	67.5	34.8	10.7	12.9	2.2	0.82
2	15.2	6.0	2.3	0.1	56.5	76.8	15.3	8.7	9.1	0.4	1.12
5	32.7	14.4	8.3	0.4	74.3	114.7	6.0	—	—	—	—
6	25.3	11.1	9.6	0.4	87.2	100.4	4.6	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として、二俣統、稲台北統が存在するが、二俣統とは堆積様式の相異、稲台北統とは表層の腐植含量の相違により区別される。

施肥改善土壌型 I 黄褐色土 壤 8 粘土型

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

洪積

B 地形

鵜川、穂別川流域の台地

C 気候

年平均気温 7.0°C、年降水量 1,084 mm、内陸性の気候であり、寒暑の差が大きい。年間を通じ快晴多い。

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

E 農業上の留意事項

地形的に狭い地帯なので用排水の施設、農道の整備があまり整っていないので早急に完備、整備する必要がある。保肥力がやや小さいのでゼオライト等の粘土資材を施用し、保肥力を増す必要がある。また約 30 cm 程度の深耕をおこない、有機物の施用、塩基の補給、磷酸資材の投入等を併せおこなう必要があると思える。

F 分布

勇払郡穂別町富内、稲里に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
富 内 一 富 内	II fn

積物を含んでいる。調査時の湿めり半湿。下層への境界明瞭。

第2層の厚さ約6cm内外。腐植含量1.7%内外。土性はSLが主である。色は5Y、彩度1、明度5である。構造は均質連結状であり、ち密度2.0前後で中、可塑性、粘着性弱程度。糸根状、膜状の酸化沈積物含む。湿めり半湿。下層への境界明瞭。

第3層の厚さ1.8cm内外。腐植含量7.5%内外、土性はLiCが主であり、色はN、明度2前後。発達強度の小塊状、粒状構造を持ち、細小中孔に富む。ち密度約1.9前後で中。可塑性、粘着性中、調査時の湿めり半湿。下層への境界漸変である。

第4層の厚さ約1.0cm前後。腐植含量3.9%前後。土性はSCが主である。色は10YR、彩度1、明度3前後。発達弱度の塊状構造で、細小孔含む。ち密度1.9で中程度。可塑性、粘着性は中。調査時の湿めり半乾。下層への境界漸変である。

第5層は約4.5cm以下である。腐植がなく、土性はLiCが主である。色は10YR、彩度2、明度4前後である。発達弱度の塊状構造。細小孔含む。ち密度1.9で中程度。可塑性、粘着性は中。調査時の湿めり半乾。

代表的断面形態

(所在地) 勇払郡穂別町二俣 試抗 27

第1層	0～1.3cm	腐植を含む灰褐(5Y4/1)のSL、粒状構造、ち密度1.5で中、可塑性、粘着性弱、糸状、糸根状、膜状の斑紋含む、湿めり半湿、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 6.3、境界明瞭。
第2層	1.3～1.9cm	腐植を欠く灰褐(5Y4/1)のSL、均質連結状構造、ち密度2.0で中可塑性、粘着性弱、糸根状、膜状の斑紋含む、湿めり半湿、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 6.7、境界明瞭。
第3層	1.9～2.5cm	腐植を含む灰色(7.5Y3/1)のLiC、発達強度の小塊状、粒状構造細小中孔に富む。ち密度1.9で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 6.6、下層への境界漸変。
第4層	2.5～3.7cm	腐植に富む黒色(N2/0)のLiC、発達強度の小塊状、粒状構造、ち密度1.9で中、細小中孔に富む、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 6.6、下層への境界漸変。
第5層	3.7～4.5cm	腐植を含む灰褐(10YR3/1)のSC、発達弱度の塊状構造、細小孔含む、ち密度1.9で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 6.6、境界漸変。
第6層	4.5～5.5cm	腐植を欠く灰褐(10YR4/2)のLiC、発達弱度の塊状構造、細小孔含む、ち密度1.9で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、境界漸変。
第7層	5.5cm以下	腐植を欠く灰褐(2.5Y4/2)のLiC、発達弱度の塊状構造、細小孔含む、ち密度1.9で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%					土性	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐植 %	P H		置換 酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土	H ₂ O						Kcl		
1	0~13	1.6	43.9	34.2	12.2	9.7	SL	1.22	0.106	11.5	2.1	6.3	5.0	0.30	
2	13~19	1.5	49.8	30.6	10.6	9.0	SL	0.99	0.085	11.6	1.7	6.7	5.5	0	
3	19~25	4.1	14.1	36.9	23.9	25.1	LiC	2.67	0.220	12.1	4.6	6.6	5.5	0	
4	25~37	—	3.2	34.2	33.4	29.2	LiC	4.35	0.326	13.3	7.5	6.6	5.5	0	
5	37~45	—	1.5	56.1	2.0	40.4	SC	2.26	0.079	—	3.9	6.6	5.5	0	

層位	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態以酸 mg/100g		乾土 効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離酸 化鉄%
		CaO	MgO	K ₂ O			E ₂	O ₅		乾土	湿土	
1	9.4	2.8	7.2	0.1	108.7	63.6	18.5	5.9	7.1	2.2	1.02	
2	8.7	2.7	4.3	0.1	83.9	57.1	14.8	5.9	6.6	0.7	0.41	
3	26.2	9.7	13.7	0.3	94.5	1,141	4.0	—	—	—	—	
4	38.0	11.8	20.1	0.3	94.4	2,310	2.4	—	—	—	—	
5	26.5	6.5	16.1	0.3	89.7	1,157	2.8	—	—	—	—	

A-2 他の土壌統との関係

本統と類する統として、富内統が存在するが、堆積様式の相異で区別される。施肥改善土壌類型ではG灰褐色土壌60強粘土構造型。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

洪積世堆積

B 地形

平坦な低地

C 気候

年平均気温7.0°C、年降水量1,084mm、内陸性の気候で寒暑の差が大きい。年間を通じて晴天が多い。

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

E 農業上の留意事項

深耕をおこない併せ、有機物の施用、塩基の補給等にて地力を増すことが必要である。

F 分布

勇払郡穂別町二俣に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
二 俣 一 二 俣	II f n

積物含む。調査時の湿めり湿。下層への境界明瞭

第2層の厚さ8cm内外、腐植含量3.3%内外、土性はCLが主である。色は5Y、彩度1、明度4である。構造は均質連結状で、細小孔有り、ち密度1.8で中、粘着性、可塑性強。糸根状、膜状含む。湿めり湿。下層への境界明瞭。

第3層の厚さ8cm内外、腐植含量3.5%内外。土性はCLが主である。色は5Y、彩度1、明度4前後。発達弱度の塊状構造。細小孔あり。ち密度1.8で中、可塑性、粘着性中程度。膜状、糸根状の酸化沈積物含む。湿めり湿。下層への境界明瞭である。

第4層は約26cm以下であり、腐植がなく、土性はSである。細半角礫(浮石)を含む。色は2.5Y~7.5Y、彩度1、明度4~6である。

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町栄 試抗 30

第1層	0~10cm	腐植を含む灰褐(5Y5/1)のSCL、粒状構造で、ち密度1.6で中、可塑性、粘着性中、糸状、糸根状、膜状の斑紋含む。湿めり湿、下層への境界明瞭。PH(H ₂ O)5.2。
第2層	10~18cm	腐植を含む灰褐(5Y4/1)のCL、均質連結状構造で、細小孔有り、ち密度1.8で中、可塑性、粘着性強、糸根状、膜状の斑紋含む。PH(H ₂ O)6.0。湿めり湿、境界漸変。
第3層	18~26cm	腐植を含む灰褐(5Y4/1)のCL、発達弱度の塊状構造、細小孔有り、ち密度1.8で中、可塑性、粘着性中、膜状、糸根状の斑紋含む、PH(H ₂ O)6.2、湿めり湿、境界明瞭。
第4層	26~38cm	腐植を欠く灰色(7.5Y6/1)のS、ち密度1.4で中、雲状の斑紋有り、湿めり湿、境界漸変。
第5層	38~58cm	灰褐(10YR4/2)のS、細半角礫(浮石)含む、雲状斑含む、湿めり潤、境界漸変。
第6層	58cm以下	灰褐(2.5Y6/2)の砂礫層、礫は細半角礫(浮石)である。湿めり潤

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%	PH		置換酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~10	2.2	34.6	27.0	18.4	20.0	SCL	1.97	0.180	10.9	3.4	5.8	4.6	1.25
2	10~18	2.0	22.8	24.5	24.1	18.6	CL	1.91	0.163	11.7	3.3	6.0	4.7	0.60
3	18~26	2.3	34.2	29.2	20.3	16.3	CL	2.03	0.155	13.1	3.5	6.2	4.9	0.30

層位	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態りん酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾土効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄%
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	14.0	5.4	2.7	0.1	59.6	8.78	7.6	1.2	4.1	2.9	1.84
2	15.1	5.7	3.0	0.1	59.5	9.28	8.6	6.5	8.5	1.7	2.04
3	14.4	5.5	3.6	0.1	65.0	8.86	6.0	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

A 土壤区の特徴

当土壤区は栄東統に属する。表土の厚さ18 cm前後、有効土層1 m以上で深い。表土の土性は粘質、可塑性、粘着性は中庸、風乾土の硬さ中で耕起、碎土はやや困難である。下層土50 cmは砂礫層であるため透水性が大きい。保肥力、固定力、塩基状態中庸である。石灰中、苦土多、加里少、りん酸中、窒素少で土壤中の養分は中庸である。特別な障害性、災害性はないが、増冠水の危険がややある。

B 植生及び利用状況

大部分稲単作である。

C 地力保全上の問題点

排水が悪いので暗渠排水の完備が必要である。土壤中の養分がやや少ないのが特徴であるため、有機物の施用、塩基の供給、りん酸資材の投入、珪カルの施用等が効果があると思える。

D 分布

勇払郡穂別町仁和に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

稲 台 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第一層の厚さ約10 cm前後、腐植含量4.2%内外、土性はCLが主である。色は2.5 Y、彩度2、明度4前後、粒状構造で、ち密度18前後で中、可塑性、粘着性、弱～中程度である。糸状、糸根状の酸化沈積物を含む～富む。湿めり湿。下層への境界明瞭である。

第2層の厚さ約7 cm前後。腐植含量3.7%内外、土性はCLが主である。色は2.5 Y、彩度2、明度4、構造は均質連結状で、ち密度が20前後で中。細小孔を含む程度。可塑性、粘着性弱～中。膜状の酸化沈積物を含む。調査時の湿めり湿。下層への境界明瞭。

第3層の厚さ約14 cm前後。腐植含量1.8%内外。土性はLiCが主である。色は2.5 Y、彩度4、明度5程度。発達弱度の小塊状、粒状構造を持つ。細孔に富み、小孔含む。ち密度20前後で中程度。可塑性、粘着性中。調査時の湿めり半湿、下層への境界漸変。

第4層は約31 cm以下である。腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は2.5 Y、彩度4、明度5前後である。半風化、風化の細小円礫あり。発達弱度の塊状、小塊状構造を持ち、ち密度21で中程度粘着性、可塑性中。調査時の湿めり半湿である。

代表的断面形態

(所在地) 勇払郡穂別町稲里 試坑 38

第1層	0～10 cm	腐植を含む灰褐(2.5 Y 4/2)のCL、粒状構造、ち密度18で中、可塑性、粘着性弱、糸状、糸根状の斑紋に富む、湿めり湿、pH(H ₂ O) 5.8、境界明瞭。
第2層	10～17 cm	腐植を含む灰褐(2.5 Y 4/2)のCL、均質連結状構造、ち密度20で中、細小孔含む、可塑性、粘着性弱、膜状斑紋含む、湿めり湿、pH(H ₂ O) 6.1、境界明瞭。
第3層	17～31 cm	腐植を欠く黄褐(2.5 Y 5/4)のLiC、発達弱度の小塊状、粒状構造

	細小孔含む、ち密度20で中、可溶性、粘着性中、湿めり半湿、 pH(H ₂ O)6.2、境界漸変
第4層 31cm以下	腐植を欠く黄褐(2.5Y5/4)のLiC、半風化、風化の細小円礫有り 発達弱度の小塊状、粒状構造、細小孔含む、ち密度21で中、可溶性、粘 着性中、湿めり半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %	pH		置換 酸 度 Y1
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~10	4.0	30.8	23.5	25.9	19.8	CL	2.44	0.253	9.7	4.2	5.8	4.5	1.88
2	10~17	4.3	24.3	28.9	28.1	18.7	CL	2.15	0.233	9.2	3.7	6.1	4.8	0.60
3	17~31	4.7	9.1	26.0	40.5	29.4	LiC	1.04	0.105	9.9	1.8	6.2	4.9	0.30

層位	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾土 効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄 %
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	17.6	7.3	1.1	0.2	50.2	1.213	14.0	0.9	3.8	2.9	2.19
2	18.7	9.4	1.3	1.1	60.5	1.322	9.2	3.4	4.6	1.2	1.36
3	23.5	14.8	3.3	0.3	82.1	1.100	3.8	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として、豊田、二俣、富内統が存在する。豊田、二俣統は堆積様式の相異、富内統とは腐植層の相違により区別される。

施肥改善土壌型 I 黄褐色土壌81 強粘土型

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

洪積世堆積

B 地形

平坦な台地

C 気候

年平均気温7.0℃、年降水量1,084mm、内陸性の気候で寒暑の差が大きい。年間を通じ晴天が多い。

D 植生及び利用状況

水稲単作がなされている。

E 農業上の留意事項

約30cm程度の深耕をおこない、根圏域の拡大と養分の供給をはかる。有機物、珪カル等の効果が大きいと見られる。

F 分布

勇払郡穂別町稲里、稲台

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

② 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
稲 台 北 ー 稲 台 北	II pfn

② 土壌区別説明

稲 台 北 ー 稲 台 北

示性分級式（水田）

土表有表耕	濕	酸	土	自	養	障	災
壤効土耘	表表表	表作	易遊	透保	保固	置有	微酸
生土	土土土	土土土	分離	然	層分	効効	害理
産土の	ののの	ののの	性酸	地	の性	態量	物
力の層	ののの	ののの	化イ	の水	の石	加燐	害
可能厚	の含	の含	機鉄	の水	塩の	基灰	土里
等深	性性	性性	物含	沃	状豊	含含	素酸
級さ	量易	性性	量量	性性	力力	量量	素度
② II	t d g p	l	r	w	f	n	i a
	I I I II	2 2 2	I 1 2	I 1 1 1	---	II 2 2 2	II 2 2 3 1 2 2 1 1 I 1 1 I 1 1
簡易分級式	II pfn						

A 土壌区の特徴

当土壌区は稲台北統に属する。表土の厚さ17cm内外、有効土層1m以上で深い。表土の土性は粘質で、耕起、碎土がやや困難である。作土下の土性が強粘質であり、ち密度も中程度であるため透水性は小さい。

保肥力、固定力、塩基状態中庸であり、石灰、苦土の含量も中程度、加里が少なく、有効態燐酸多、窒素が少ない。特に障害性、災害性というものはない。

B 植生及び利用状況

大部分水稻単作がなされている。

C 地力保全上の問題点

自然肥沃度、養分がやや劣るのが特徴であり、深耕により自然肥沃度を高め、併せて、塩基の補給、有機物の施用、珪カル、ゼオライト等の土壌改良資材の投入を計ることが必要である。深耕は約30cm程度必要である。

D 分 布

勇払郡穂別町稲里、稲台

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

仁 和 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm内外。腐植含量4.1%前後、土性はCLが主である。色は5Y、彩度1、明度5前後である。構造は粒状で、ち密度1.4で中程度、可塑性、粘着性は中～強である。糸状、糸根状、膜状の酸化沈積物を含む。湿めり湿、下層への境界明瞭。

第2層の厚さ11cm内外、腐植含量3.3～3.5%前後、土性はL～CLである。色は10Y、彩度1明度6～7である。構造は均質連結状で、細小孔あり。ち密度2.0前後で中、可塑性、粘着性は中程度糸根状、膜状の酸化沈積物を含む。調査時の湿めり湿、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ16cm内外、腐植含量6.2%前後、ヨシを含む。土性はCLが主である。色は2.5Y、彩度2、明度4が主である。発達弱度の塊状構造、ち密度1.7前後で中程度、細小中孔あり。可塑性、粘着性弱～中である。糸根状、膜状の酸化沈積物含む。湿めり潤、下層への境界明瞭。

第4層の厚さ約8cm前後。腐植を欠き、粘土と砂との互層となつている。色は2.5Y、彩度7、明度2前後である。ヨシを含む。調査時の湿めり潤、下層への境界明瞭である。

第5層は約50cm以下である。細半角礫からなる砂礫層である。湿めり潤。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 勇払郡穂別町仁和 試抗 31

第1層	0～15cm	腐植を含む灰褐(5Y6/1)のCL、粒状構造、ち密度1.4で中、可塑性、粘着性強、糸状、糸根状、膜斑紋含む。湿めり湿、pH(H ₂ O) 5.7、境界明瞭。
第2層	15～22cm	腐植を含む灰色(10Y7/1)のCL、均質連結状構造、ち密度2.0で中、糸根状、膜状の斑紋含む。可塑性、粘着性中、湿めり湿、pH(H ₂ O) 6.3、境界明瞭。
第3層	22～26cm	腐植を含む灰色(10Y6/1)のL、均質連結状構造、ち密度2.0で中可塑性、粘着性中、糸根状、膜状の酸化沈積物含む。湿めり湿、pH(H ₂ O) 6.6、境界明瞭。
第4層	26～42cm	腐植に富む灰色(2.5Y4/2)のCL、発達弱度の塊状構造、細小中孔あり、ち密度1.7で中、可塑性、粘着性中、糸根状、膜状の斑紋含む。ヨシ含む。湿めり潤、境界明瞭。
第5層	42～50cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y7/2)で、粘土と砂の互層となつている。膜状の斑紋あり。ヨシを含む。湿めり潤、境界明瞭。
第6層	50～66cm	腐植を欠く黄褐(10YR4/3)でS、細半角礫(浮石)に頗る富む。湿めり潤、境界漸変。
第7層	66cm以下	腐植を欠く砂礫層、色は灰褐(5Y6/1)である。湿めり潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %	PH		置換 酸度 Y1
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~15	2.6	16.5	31.0	34.2	18.3	CL	2.38	0.235	10.1	4.1	5.7	4.8	0.6
2	15~22	2.7	18.2	31.8	31.8	18.2	CL	2.03	0.184	11.0	3.5	6.3	5.5	0
3	22~26	2.7	3.1	50.3	32.1	14.5	L	1.91	0.168	11.4	3.3	6.6	5.8	0
4	26~42	4.1	32.9	11.1	33.8	22.2	CL	3.60	0.215	16.7	6.2	6.4	5.6	0

層位	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態以酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾土 効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄%
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	18.3	8.8	9.4	0.2	103.0	941	12.6	4.5	6.6	2.1	1.64
2	18.6	7.4	8.0	0.2	86.5	932	11.4	4.5	10.5	6.0	1.85
3	20.8	8.4	10.9	0.1	95.5	941	10.0	—	—	—	—
4	23.9	8.2	12.0	0.1	89.0	953	3.8	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類する統として、豊田西、栄東統が存在する。豊田西統とは土性が相違し、砂層の出現位置が本統が低いことにより区別される。栄東統とは砂層の出現位置が相違することにより区別される。

施肥改善土壌類型 K 礫質土壌 9 3 壤土満俺型

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成)

B 地形

鶴川、穂別流域の平坦地

C 気候

年平均気温 7.0°C、年降水量 1,084 mm、内陸性の気候で寒暑の差が大きい。

D 植生及び利用状況

水稻単作がなされている。

E 農業上の留意事項

やや湿性なので暗渠排水が必要であり、生育後期に窒素の生成が多くなり、出来遅れの傾向があり、倒伏の心配があり、中干し等をおこなうことがよいが、そのためには用排水を完備することが必要である。

F 分布

穂別町仁和、富内、稲台に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
仁 和 西 - 仁 和 西	Ⅱ p. l a

② 土壤区別説明

仁 和 西 - 仁 和 西

示性分級式(水田)

	土 壤	表 土	表 土	表 土	溝 作	酸 作	遊 離	土 質	自 然	保 固	養 分	置 換	有 機	微 酸	障 害	災 害	地 冠
	生 産 力 可 能 性 等 級	効 率 の 厚 さ	土 質 の 粘 着 性	土 質 の 乾 硬 性	50cm 以下 の 透 水 性	50cm 以下 の 透 水 性	遊 離 酸 の 含 量	水 潤 度	肥 沃 度	固 定 力	塩 基 状 態	石 灰 含 量	加 里 含 量	苦 土 含 量	窒 素 含 量	有 害 物 質 の 含 量	増 冠 水 の 危 険 性
(Ⅱ)	t d g p	l	r	w	f	n					i	a					
	I I I II 2 2 2	II 2 2	I 1 1 1	-----	I 2 2 1	I 1 1 2 1 2	1 1 1	I 1 1	II 2 1								
	簡 略 分 級 式	Ⅱ p l a															

A 土壤区の特徴

当土壤区は仁和西統に属する。表土の厚さ15cm内外、有効土層1m以上で深い。表土の土性は粘質であり、粘着性は中程度であるため、耕起、碎土がやや困難である。下層50cmの土性が壤質であり、ち密度が中庸なので、透水性はややよいが、地下水位がやや高いので、実際の透水は少ないと考えられる。保肥力、固定力中庸で、塩基状態良好。自然肥沃度は高～中である。石灰、加里、苦土とも多く、有効態磷酸も多。窒素は中庸である。湿性であるため、増冠水の危険性が多水ある。

B 植生及び利用状況

水稻単作がなされている。

C 地力保全上の留意事項

当土壤区は湿性で、地下水位もやや高いと思われるので、暗渠による排水が必要である。また腐植層が下層に存在するため、地温の上昇とともに窒素が生成され、生育の遅れとなり、倒伏の危険性が高い。間断灌水等の方法を取ることを考慮する必要がある。

D 分 布

勇払郡穂別町仁和、稲台、富内
 記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和43年3月31日

豊 田 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ23cm内外、腐植含量1.9%内外、土性はSLが主である。色は5Y、彩度5、明度1である。構造は粒状で、可塑性、粘着性中程度、糸状、膜状の酸化沈積物含む。湿めり湿、下層の境界明瞭である。

第2層の厚さ17cm内外、腐植が無く、土性はLが主である。色は5Y、彩度2、明度6程度、発達弱度の塊状構造で、細小中孔有り。ち密度12前後で中である。可塑性、粘着性は中程度、膜状、雲状の酸化沈積物を含む。湿めり湿、ヨシを含む。下層への境界明瞭である。

第3層は約40cm以下で、砂礫層～砂層である。礫は細半角礫頗る富む(浮石)である。湿めりは潤

代表的断面形態

(所在地) 勇払郡穂別町豊田 試抗地点 20

第1層	0~20cm	腐植を欠く灰褐(5Y3/1)のSL、粒状構造で、ち密度20で中、可塑性、粘着性弱、糸状、糸根状、膜状の斑紋含む、pH(H ₂ O)5.6 湿めり湿、境界明瞭。
第2層	20~23cm	腐植を欠く灰褐(5Y3/1)のSL、均質連結状で細小孔有り。ち密度19で中。可塑性、粘着性弱、膜状の斑紋含む。pH(H ₂ O)5.8、湿めり湿、境界明瞭。
第3層	23~40cm	腐植を欠く灰褐(5Y6/2)のL、発達弱度の塊状構造、細小中孔有り ち密度12で中、可塑性、粘着性中、膜状、雲状の斑紋含む。ヨシ含む。 pH(H ₂ O)6.0、湿めり湿、境界明瞭。
第4層	40~51cm	腐植を欠く灰色(7.5Y5/1)の砂礫層の礫は細半角礫(浮石)である 湿めり湿、下層への境界明瞭。
第5層	51~60cm	黄褐(10YR4/4)の砂礫層、礫は細半角礫(浮石)である。湿めり潤、下層への境界明瞭。
第6層	60~67cm	ヨシを含む灰色(7.5Y6/1)のLiC、均質連結状構造で、可塑性、粘着性強、膜状、雲状の斑紋に頗る富む。湿めり潤、境界明瞭。
第7層	67cm以下	砂層で灰色(N5/0)、湿めり潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %	pH		置換 酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~20	2.1	42.6	36.4	11.1	9.9	SL	1.10	0.120	9.2	1.9	5.6	4.2	5.00
2	20~23	2.2	43.5	35.3	12.8	8.4	SL	0.99	0.107	9.3	1.7	5.8	4.5	1.88
3	23~40	3.7	1.8	56.5	27.9	13.8	L	0.46	0.095	—	—	6.0	4.7	0.94

層位	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態の酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾土 効果	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄%
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	10.8	11.6	0.9	0.4	121.3	63.9	36.8	7.2	8.6	1.4	0.82
2	10.6	4.6	1.1	0.3	57.8	64.5	24.7	4.6	5.6	1.0	1.02
3	15.6	9.5	2.6	0.4	83.7	90.2	6.0	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として仁和西、栄東が存在する。仁和西とは表土の土性の相異と腐植の相異、栄東とは砂層の出現位置により区分する。

施肥改善土壌類型、K 礫質土壌 9 4 砂土盤層型

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地形

山間の平坦地

C 気候

年平均温 7.0℃、年降水量 1,084 mm、内陸性の気候、寒暑の差が大きい。

D 植生及び分布

水稻単作に利用されている。

E 農業上の留意事項

地下水位が高いため、暗渠排水又は明渠排水の完備が必要。極めて窒素地力が低いため、有機物の施用が必要である。

F 分布

勇払郡穂別町豊田に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 田 西 一 豊 田 西	II l II a

② 土壌区別説明

豊 田 西 一 豊 田 西

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 効 率 土 層 厚 深 さ	表 土 粘 土 含 量 易 性	表 土 風 乾 性 性	表 土 透 透 50cm 最 高 土 密 度 性	耕 作 土 下 部 50cm 以 上 土 質 性	作 業 土 質 性	易 遊 離 性 化 物 含 量 性	グ 地 水 潤 沃 性 度	土 質 自 然 肥 定 状 否	自 保 固 層 分 換 性 量	養 置 有 効 性 量	置 換 性 量	有 効 性 量	微 酸 性 量	障 害 質 有 害 性	災 害 危 險 度	地 冠 水 危 險 度
tdgp	l	r	w	f	n	i	a										
II II II 1 1 1 1 III 3 3 I 1 2 1				I 2 1 1 I 1 2 1 1 3 2 1 2 I 1 1 II 2 1													
簡 略 分 級 式	II l II a																

A 土壤区の特徴

当土壤区は豊田西統に属する。表土の厚さ20cm前後、有効土層1m以上で深い。表土の土性は壤質で、粘着性弱で、耕起、碎土は容易である。下層50cmは砂礫層であるため透水性は極めて大きい。しかし地下水位が高いため、実際の透水性は大いとはいえないようである。特別の障害性、災害性はないが、増冠水の危険が多少考えられる。

保肥力中、固定力小、塩基良好で、自然肥沃度は高い。石灰、加里、磷酸多く、苦土が中、窒素が少ない。

植生及び利用状況

水稻単作がなされている。

C 地力保全上の問題点

排水が悪いので、暗渠、又は明渠等の排水の完備が必要である。土壤の窒素の地力が低いこと。保肥がないことなどから深耕をおこない、併せて有機物の施用、塩基の補給、ゼオライト、ペントナイトなどの粘土資材等の投入が必要である。また良質粘土の客入もよい。

D 分 布

勇払郡穂別町豊田

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

豊 田 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ約14～15cm内外、腐植含量3.4%内外、土性はLiCが主である。色は5Y、彩度1、明度5程度、粒状構造で、ち密度19で中前後である。可そ性、粘着性中、糸状、糸根状、膜状の酸化沈積物有り。湿めり半乾、下層への境界明瞭～漸変。

第2層の厚さ約10cm前後、腐植含量2%前後、土性はLiCが主である。色は5Y、彩度1、明度5程度。構造は均質連結状で、細小孔有り。ち密度19前後で中。可そ性、粘着性は中程度、湿めり半乾、下層への境界漸変～明瞭。

第3層の厚さ約25cm前後、腐植含量2.0%内外、土性はLiCが主である。色は2.5Yで、彩度2、明度4程度、発達中程度の粒状、小塊状、塊状構造である。細小中孔に富む。ち密度19で中程度、可そ性、粘着性中程度、湿めり半湿、下層への境界漸変。

第4層は約50cm以下である。腐植がなく、土性はLiCが主である。色は2.5Y、彩度2、明度5である。発達中程度の小塊状、塊状構造である。細小中孔有り。ち密度14で中、可そ性、粘着性中程度湿めり半湿。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 勇払郡穂別町豊田 試抗 16

第1層	0～14cm	腐植を含む灰褐(5Y5/1)のLiC、粒状構造で、ち密度19の中、可そ性、粘着性中、糸状、糸根状、膜状の斑紋有り。湿めり半湿、PH(H ₂ O)6.8、境界不明瞭。
第2層	14～25cm	腐植を含む灰褐(5Y5/1)のLiC、均質連結状構造で、細小孔有り。

		ち密度19で中、可溶性、粘着性中、湿めり半湿、pH(H ₂ O)7.0、境界明瞭。未風化中円礫含む。
第3層	25~50cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y4/2)のLiC、発達中度の小塊状、塊状構造細小孔に富む。ち密度19で中、可溶性、粘着性中、湿めり半湿、pH(H ₂ O)7.1、境界漸変。
第4層	50cm以下	腐植を欠く灰褐(2.5Y5/2)のLiC、発達中度の小塊状、塊状構造細小孔富む。ち密度14で中、可溶性、粘着性中、湿めり半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %	P H		置 換 酸 度 Y ₁
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl	
1	0~14	4.2	9.4	30.9	33.2	26.5	LiC	1.97	0.169	11.7	3.4	6.8	5.4	0.30
2	14~23	3.1	15.7	28.8	26.8	28.7	LiC	1.16	0.126	9.2	2.0	7.0	5.9	0
3	23~50	2.1	1.5	19.0	44.4	35.1	LiC	1.33	0.142	9.4	2.3	7.1	5.9	0

層位	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 以 外 酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
		CaO	MgO	K ₂ O					乾 土	湿 土	
1	22.6	9.0	9.6	0.3	87.3	1.086	14.0	0.8	2.8	2.0	1.67
2	17.2	8.1	8.4	0.3	100.5	9.62	13.2	3.2	3.8	0.6	1.55
3	24.6	12.3	12.7	0.3	107.6	1.183	9.2	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として稻台北が存在するが堆積様式の相異で区別される。施肥改善土壌類型ではG灰褐色土壌60強粘土構造型。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成)

B 地 形

平坦地

C 気 候

年平均気温7.0°C、年降水量1084mm、内陸性の気候である。

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

E 農業上の留意事項

用排水の完備、深耕、有機物施用等の事を施し、収量増収をはかる。

F 分 布

勇払郡穂別町の鵡川流域に分布する。

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
豊 田 一 豊 田	II pf

② 土壤区別説明

豊 田 一 豊 田

示性分級式(水田)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 深 さ	表 土 粘 土 含 量	表 土 風 乾 土 硬 性	表 土 透 水 性	表 土 下 50 cm 最 高 元 素 含 量	作 業 上 の 難 易 度	遊 離 酸 性 化 物 含 量	地 盤 固 定 力	自 然 肥 沃 度	養 分 保 固 力	置 換 性	有 機 質 含 量	微 酸 性	障 害 性	災 害 危 険 度
II	t d g p	l	r	w	f	n	i	a							
	I I I II 3 2 3	I 1 2	I 1 1 1	— — —	II 1 2 2	I 1 1 2 1 3 2 1 1	I 1 4	I 1 1							
簡易分級式	II P f														

A 土壤区の特徴

当土壤区は豊田統に属する。表土の厚さ20cm内外、有効土層1m以上で深い。表土の土性が強粘質粘着性やや強く、風乾土も硬いので、耕起、砕土がやや困難である。下層土の土性もLiC、ち密度も1.4~1.9であるので透水性は適当である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中で、自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土、磷酸多く、加里、窒素がやや少ない。特別な災害性、障害性は見られない。

B 植生及び利用状況

水稻単作がなされている。

C 地力保全上の問題点

30cm程度の深耕をおこない根圏域を広げる。有機物を施用し土壤の窒素地力を高めることが必要である。珪カル等の土壤改良資材も効果が高い。

D 分布

勇払郡徳別町の鶴川流域に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

和 泉 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ約13cm内外、腐植含量1.7%前後、土性はCLが主である。色は7.5Y、彩度1、明度5前後、粒状構造で、ち密度1.3前後で中、可塑性、粘着性は中のもが多い。糸状、糸根状、膜状の酸化沈積物含む。調査時の湿めり湿、下層への境界明瞭。

第2層の厚さ約7cm前後、腐植含量1.5%前後、土性はSCLが主である。色は7.5Y、彩度2、明度5程度、構造は均質連結状で、細小孔があり～含む程度、ち密度1.8～2.0で中、可塑性、粘着性は中程度のもが多い。糸根状、膜状の酸化沈積物含む。調査時の湿めり湿、下層への境界明瞭のもが多い。

第3層の厚さ9cm内外、腐植含量2.0%前後、土性はCLが主である。色は2.5Y、彩度2、明度4程度、発達弱度の小塊状構造、細小中孔有り。ち密度1.0前後で疎～中である。可塑性、粘着性中程度調査時の湿めり半湿、下層への境界漸変である。

第4層の厚さ18cm内外、腐植含量1.4%内外、土性はSL～SCLが主である。色は2.5Y～5Y 彩度1～2、明度4～6である。発達弱度の小塊状～塊状構を持ち、ち密度1.3前後で中である。可塑性、粘着性中、調査時の湿めり半湿、下層への境界明瞭である。

第5層は約48cm以下であり礫を含む砂層からなっている。礫は細半角礫(浮石)である。色は一般に2.5Y～5Yで彩度1、明度5～6である。調査時の湿めりは半乾である。

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町和泉 試抗 10

第1層	0～13cm	腐植を欠く灰色(7.5Y5/1)のSL、粒状構造、ち密度1.3で中、可塑性、粘着性中、糸状、糸根状、膜状の斑紋含む。pH(H ₂ O)6.5、湿めり湿、境界明瞭。
第2層	13～21cm	腐植を欠く灰色(7.5Y5/1)のSCL、均質連結状で、ち密度1.8の中、細小中孔有り。糸根状、膜状の斑紋含む。pH(H ₂ O)7.0、湿めり湿、境界明瞭。
第3層	21～30cm	腐植を含む灰褐(2.5Y4/2)CL、発達弱度の小塊状構造、細小中孔有り。ち密度1.0で中、可塑性、粘着性中、pH(H ₂ O)7.0、湿めり半湿、境界漸変。
第4層	30～36cm	腐植を欠く灰褐(5Y4/1)のSL、発達弱度の塊状構造、細小中孔有り。ち密度1.5で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、境界漸変。
第5層	36～48cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y4/2)のSCL、発達弱度の小塊状構造、細小中孔有り。ち密度1.1で中、可塑性、粘着性中、pH(H ₂ O)7.1、湿めり半湿、境界明瞭。
第6層	48～69cm	灰褐(2.5Y6/2)のSである。細半角礫(浮石)を含む。湿めり半湿下層への境界明瞭。
第7層	69cm以下	灰褐(5Y6/1)の砂礫層である。礫は細半角礫(浮石)である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭 素 %	全窒 素 %	炭 素 率	腐 植	pH		置換 酸度 Y 1
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~13	1.3	23.6	49.4	13.5	13.5	S L	0.99	0.153	6.5	1.7	6.5	5.3	0.30
2	13~21	2.7	20.7	43.9	13.5	21.9	SCL	0.87	0.084	10.3	1.5	7.0	5.8	0
3	21~30	3.9	16.5	23.7	35.2	24.6	CL	1.33	0.403	—	2.3	7.0	5.9	0
4	30~36	1.8	41.0	35.6	11.8	11.6	S L	0.81	0.078	10.4	1.4	—	—	—
5	36~48	3.4	16.5	45.9	19.6	18.0	SCL	0.75	0.092	7.6	1.3	7.1	5.8	0

層位	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態リン酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄 %
		CaO	MgO	K ₂ O					乾 土	湿 土	
1	10.3	3.9	7.0	0.1	109.4	762	13.6	5.3	6.6	1.3	1.32
2	12.2	4.9	8.4	0.2	113.2	792	9.3	4.0	5.1	1.1	1.44
3	22.5	7.2	12.6	0.2	92.7	1,034	8.7	—	—	—	—
4	10.7	3.6	5.3	0.1	86.1	582	12.0	—	—	—	—
5	21.6	6.1	11.9	0.2	87.3	899	7.7	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として、仁和西、豊田西統が存在するが、本統は排水良好であり、乾田土壌であることにより区別される。

施肥改善土壌型 G 灰褐色土壌 64 砂土型

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成)

B 地 形

平坦地

C 気 候

年平均気温 7.0°C、年降水量 1,084 mm、内陸性の気候である。

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

E 農業上の留意事項

漸次深耕により、作土層を広げ、根圏域を拡大する。又有機物を施用し、窒素の地力を高めることも必要である。

F 分 布

勇払郡鶴別町の鶴川流域に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
和 泉 - 和 泉	II lfn

② 土壤区別説明

和 泉 - 和 泉

示性分級式(水田)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	有 効 土 層 の 厚 さ	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 風 乾 性	表 土 の 硬 さ	作 業 上 の 難 易 度	土 質 の 解 離 性	遊 離 酸 の 含 量	地 盤 の 透 水 性	自 然 肥 沃 度	保 固 力	養 分 換 取 率	置 換 性	有 機 質 含 量	微 酸 性	障 害 物 質	災 害 危 險 度	
t d g p	l	r	w	f	n	i	a										
II	I	I	I	I	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1	2	1	1
簡 易 分 級 式	II lfn																

A 土壤区の特徴

当土壤区は和泉統に属する。表土の厚さ20cm内外、有効土層1m以上で深い。表土の土性はSL~SCLで、粘着性、風乾土の硬さともに中程度で、耕起、碎土は容易である。透水性は適当であり、保肥力、固定力、塩基状態中程度で、自然肥沃度中庸といえる。石灰、加里が中程度、苦土、りん酸が多く、窒素が少ない。

B 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

C 地力保全上の問題点

当土壤区は養分分にやや劣ることがうかがえるので、深耕により保肥力を高め、根の伸長を助けて養分の吸収をスムーズにする。また有機物の施用により窒素の地力を増す必要がある。また塩基を補給することも必要である。

D 分 布

勇払郡穂別町の鶴川流域に分布
 記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和43年3月31日

穂 別 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ約15cm前後、腐植含量1.4%内外、土性はSLが主である。色は5Y、彩度1、明度

6前後、粒状構造で、細小孔有り。可塑性、粘着性は中程度のものが多い。糸状、糸根状、膜状の酸化沈積物を含む。調査時の湿りり湿、下層への境界明瞭である。

第2層の厚さ約5cm前後、腐植含量1.3%内外、土性はSLが主である。色は2.5Y、彩度2、明度5程度、構造は均質連結状で、細小中孔有り。ち密度2.0前後で中である。可塑性、粘着性弱、糸根状膜状の酸化沈積物有り。湿りり半湿、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ約2.0cm前後で、砂礫層である。礫は小中円礫で、未風化～半風化のものが多い。砂岩質のものである。

第4層の厚さ約1.5cm程度、腐植含量2.0%内外、土性はCLが主である。色は5Y、彩度1、明度5程度である。発達中度の小塊状、塊状構造からなり、ち密度1.7前後で中である。可塑性、粘着性中程度、雲状の酸化沈積物に富む。PH(H₂O)7.2、湿りり湿、下層への境界明瞭。

第5層は約6.6cm以下である。腐植がなく、土性はCLが主である。色は2.5Y、彩度2、明度5程度、発達弱度の塊状構造をもつ。粘着性、可塑性は中程度である。ち密度は1.6で中、湿りり半湿～湿

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町和泉 試坑 24

第1層	0～15cm	腐植に欠く灰褐(5Y6/1)のSL、粒状構造で、ち密度1.4で中、可塑性、粘着性中、糸状、糸根状、膜状の斑紋含む。PH(H ₂ O)6.7、湿りり湿、境界明瞭。
第2層	15～20cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y5/2)のSL、均質連結状構造、ち密度2.0で中、細小中孔有り。可塑性、粘着性弱、糸根状、膜状斑紋有り。PH(H ₂ O)7.1、湿りり湿、境界明瞭。
第3層	20～40cm	灰褐(5Y5/1)の砂礫層、小中円礫で未風化、半風化、湿りり半湿
第4層	40～66cm	腐植を含む灰褐(5Y5/1)のCL、発達中度の小塊状、塊状構造、細小中孔に富む。ち密度1.7で中、可塑性、粘着性中、膜状、雲状の斑紋含む。PH(H ₂ O)7.2、湿りり半湿、境界明瞭。
第5層	66cm以下	腐植を欠く灰褐(2.5Y5/2)のCL、発達弱度の小塊状、塊状構造、細小孔有り。ち密度1.6で中、可塑性、粘着性中、湿りり半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植	pH		置換酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0～15	2.7	20.7	53.5	13.2	12.6	SL	0.81	0.087	9.3	1.4	6.7	5.5	0
2	15～22	2.1	24.3	52.0	15.5	8.2	SL	0.75	0.065	10.8	1.3	7.1	5.9	0
4	40～66	4.4	1.0	36.9	39.7	22.4	CL	1.33	0.151	8.2	2.3	7.2	5.9	0

層位	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態りん酸 mg/100g	乾土効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄%
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	10.0	3.0	6.7	0.2	100.9	699	11.5	4.9	5.6	0.7	1.23
2	9.7	2.9	7.0	0.1	105.3	685	10.2	5.0	5.7	0.7	1.23
4	22.1	6.6	17.1	0.1	112.5	1144	8.2	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として豊田東統が存在するが、本統は下層約40cm程度から粘土層であることにより区別せられる。

施肥改善土壌類型 G 灰褐色土壌61 粘土質構造満俺型

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成)

B 地形

平坦

C 気候

年平均気温7.0℃、年降水量1,084mm、内陸性の気候である。

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作である。

E 農業上の留意事項

粘土客土をおこない保肥力を高める必要がある。また有機物の施用により、土壌の窒素地力を高めることが大事である。その他塩基補給等。

F 分布

勇払郡穂別町に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
穂 別 南 一 穂 別 南	II l f n i

② 土壌区別説明

穂 別 南 一 穂 別 南

示性分級式(水田)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 の 層 厚 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	表 土 の 風 乾 性	表 土 の 透 水 性	作 業 上 の 難 易 度	土 質 分 類	遊 離 酸 性 有 機 物 含 量	土 質 固 定 性	自 然 潤 滑 性	保 固 力	養 分 換 取 率	置 換 性	有 機 質 含 量	微 酸 性	障 害 物 質 含 量	災 害 危 險 性	地 冠 水 の 危 險 性
II	t d g p	l	r	w	f	n	i	a									
	I I I I I	1 1 1	II 2 2	I 1 2 1	— — — —	II 2 1 2	II 3 1 2 1 3 2 1 1	II 1 2	I 1 1								
簡略分級式	II l f n i																

A 土壤区の特徴

当土壤区は穂別南統に属する。表土の厚さ22cm内外、有効土層1m以上で深い。表土の土性が壤質で粘着性も弱く、耕起、砕土が容易である。下層土50cm以内に厚さ20cm内外の砂礫層があるため、やや透水性が大きい。

保肥力中、固定力少、塩基状態中庸で、自然肥沃度中庸である。石灰、窒素が少なく、苦土、燐酸は中程度、加里が少ない。その他、特別な障害性、災害性はないが、砂礫層による根の伸長が阻害される程度の障害性が見られる。

B 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

C 地力保全上の問題点

保肥力と土壤の養分状態がやや悪いので、良質粘土を投入することにより、保肥力を高め、さらに有機物施用、塩基の補給等のことが必要である。

D 分 布

勇払郡穂別町二俣に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

東 雲 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm内外、腐植含量1.5%前後、土性はLSが主である。色は2.5Y、彩度2、明度6前後、構造は粒状構造、可塑性、粘着性中程度、糸状、糸根状、膜状の酸化沈積物有り。調査時の湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第2層の厚さ6cm前後、腐植含量2.1%前後、土性はSLが主である。色は7.5GY、彩度1、明度5が主体である。構造は均質連結状で、ち密度1.7前後で中、可塑性、粘着性中程度、膜状の酸化沈積物を含む。湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ25cm内外、砂層～砂礫層である。礫は細半角礫（浮石）である。湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第4層の厚さ14cm内外、腐植含量3.1%で、土性はSiLが主である。発達弱度の小塊状、塊状構造を持つている。ち密度1.6で中、可塑性、粘着性中程度、湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第5層は約60cm以下である。これは礫層が未風化～半風化の小中円礫である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 勇払郡穂別町東雲 試抗 28

第1層	0～15cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y6/2)のLS、単粒状構造、可塑性、粘着性弱糸状、糸根状、膜状の斑紋有り。pH(H ₂ O)、湿めり半湿、境界不明瞭。
第2層	15～21cm	腐植を含む青灰(7.5GY5/1)のSL、均質連結状構造、ち密度1.7で中、可塑性、粘着性中、膜状の斑紋含む。pH(H ₂ O)、湿めり半湿、境界明瞭。

第3層	21~30cm	腐植を含む灰色(N4/0)のLS、単粒状構造、ち密度7で疎、湿めり半湿、境界漸変。
第4層	30~46cm	灰褐(2.5Y7/2)の砂礫層、礫は細半角礫(浮石)である。境界明瞭
第5層	46~60cm	腐植を含む灰褐(2.5Y3/2)のSiL、発達中程度の小塊状、塊状構造ち密度16で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、境界明瞭
第6層	60cm以下	灰褐(2.5Y3/2)の礫層、未風化、半風化の小中円礫である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH		置換酸度 Y1
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~15	1.6	42.6	42.7	4.9	9.8	LS	0.87	0.071	12.2	1.5	6.9	5.8	0
2	15~21	1.7	40.5	32.2	12.7	14.6	SL	1.22	0.139	8.8	2.1	6.7	5.7	0
3	21~30	0.4	61.4	26.5	5.9	6.2	LS	1.22	0.354	—	2.1	7.2	6.3	0
5	46~60	3.3	22.8	18.3	56.1	2.8	SiL	1.80	0.202	8.9	3.1	7.0	5.8	0

層位	塩基置換容 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態の酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾土 効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	8.7	2.1	6.7	0.1	103.7	644	19.0	0.8	2.5	1.7	10.2
2	12.4	3.8	6.6	0.1	86.7	761	14.0	0.9	2.8	1.9	11.2
3	7.1	3.1	3.8	0.4	96.6	552	14.6	—	—	—	—
5	22.4	6.8	12.4	0.3	89.9	990	5.0	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として栄東統が存在するが本統は全層土性が粗く、湿润度の相違等により区別される。

施肥改善土壌型 K 礫質土壌 9 4 砂土盤層型

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成)

B 地 形

平坦地

C 気 候

年平均気温7.0℃、年降水量1,084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作がなされている。

E 農業上の留意事項

粘土客土をおこない保肥力を高め、同時に塩基の補給、有機物の施用をおこなう必要がある。

F 分 布

勇払郡鶴別町東雲に分布

豊 田 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ10 cm内外、腐植含量1.4%、土性はSCLが主である。色は2.5 Y、彩度2、明度4程度、粒状構造を呈し、ち密度1.9で中、可塑性、粘着性は弱～中程度である。糸状、糸根状、膜状の酸化沈積物有り。調査時の湿めり半乾、下層への境界明瞭。

第2層の厚さ5 cm内外、腐植含量1.3%、土性はSCLが主である。未風化～半風化の小中円礫に富む色は2.5 Y、彩度2、明度4程度である。ち密度2.3で中、湿めり半乾、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ10 cm内外、未風化、半風化の小中円礫による礫層である。下層への境界漸変。

第4層は約25 cm以下、未風化、半風化の小中円礫による砂礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 勇払郡穂別町豊田 試抗 13

第1層	0～10 cm	腐植を欠く灰褐(2.5 Y 4/2)のSCL、粒状構造、ち密度1.9で中、可塑性、粘着性中、糸状、糸根状、膜状の斑紋有り。pH(H ₂ O)、湿めり半湿、境界明瞭。
第2層	10～15 cm	腐植を欠く灰褐(2.5 Y 4/2)のSCL、未風化、半風化の小中円礫に富む。ち密度2.3で中、可塑性、粘着性中、pH(H ₂ O)、湿めり半乾境界明瞭。
第3層	15～25 cm	未風化、半風化小中円礫からなる礫層である。境界漸変。
第4層	25 cm以下	未風化、半風化小中円礫からなる砂礫層である。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %	pH		置 換 酸 度 Y _f
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl	
1	0～10	1.4	32.3	41.1	11.1	15.5	SCL	0.81	0.068	12.3	1.4	6.9	5.7	0
2	10～15	1.3	33.7	41.1	9.1	16.1	SCL	0.75	0.091	8.2	1.3	7.1	5.8	0

層位	塩基置換 容 量 me/100 g	置 換 性 塩 基 me/100 g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 以 外 乾 土 mg/100 g E ₂ O ₅	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発 生 量 mg/100 g		遊 離 酸 化 鉄 %
		CaO	MgO	K ₂ O					乾 土	湿 土	
1	13.3	3.8	9.4	0.2	104.1	7.07	13.5	3.1	4.1	1.0	1.33
2	12.4	3.6	7.3	0.1	90.9	6.94	11.8	2.7	4.9	2.2	1.12

A-2 他の土壤統との関係

本統と類似する統は穂別南、東雲西がある。穂別南とは礫層の厚さ、東雲西とは有効土層の深さにより区分した。

施肥改善土壤型 J 礫層土壤91 粘土型

質で、粘着も中程度であるため、耕起、砕土がやや困難である。透水性が大きく、物理的な障害性がある。

自然肥沃度中庸であり、養分も中庸である。

B 植生及び利用状況

水稻単作がなされている。

C 地力保全上の問題点

礫層が出現するため、粘土客土をおこない、作土を厚くし、漏水を防止することが必要である。また塩基の補給、有機物の施用がよい。

D 分布

勇払郡穂別町の鶴川流域

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

安 住 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後、腐植含量3~4%前後、土性はSLが主である。色は5Y、彩度1、明度3程度、粒状構造を呈し、ち密度1.7前後で中程度である。可塑性、粘着性弱程度、調査時の湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第2層の厚さ約30cm前後、腐植含量2%前後、土性はLが主である。色は2.5Y、彩度2、明度4前後である。発達中度の小塊状、塊状構造を持つ。可塑性、粘着性中程度、調査時の湿めり半乾、下層への境界漸変。

第3層は約40cm以下である。半風化、風化の小中半角礫、角礫からなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 勇払郡鶴川町富内 試抗 35

第1層	0~10cm	腐植を含む灰褐(5Y3/1)のSL、粒状構造で、粘着性、可塑性は弱、pH(H ₂ O)6.8、湿めり半湿、境界不明瞭。
第2層	10~15cm	腐植を含む灰褐(5Y3/1)のSL、均質連結状構造、ち密度1.7で中、可塑性、粘着性弱、pH(H ₂ O)5.7、湿めり半湿、境界明瞭。
第3層	15~20cm	腐植を欠く黄褐(10YR3/3)のSL、ち密度1.6、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、境界漸変。
第4層	20~40cm	腐植を含む灰褐(2.5Y4/2)のL、発達弱度の小塊状、塊状構造、ち密度1.5で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、境界漸変、pH(H ₂ O)5.7
第5層	40cm以下	半風化、風化の礫からなる礫層、礫は小中半角礫、角礫であり、砂岩、頁岩が主である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植%	pH		置換酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~10	2.7	61.8	15.5	17.2	5.5	S L	1.91	0.216	8.8	3.3	6.8	5.1	0.30
2	10~15	2.9	55.9	18.6	19.2	6.3	S L	2.38	0.221	10.8	4.1	5.7	5.1	0.30
4	20~40	3.0	18.8	39.1	27.3	14.8	L	1.22	0.163	8.1	2.1	5.7	4.8	0.60

層位	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態りん酸 mg/100g	乾土効果	30°C N H ₄ - N 発生量 mg/100g		遊離酸化 %
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	11.1	3.4	0.2	0.1	33.5	9.67	25.9	2.9	4.6	1.7	0.82
2	9.7	3.0	0.3	0.1	36.2	10.83	16.7	8.8	12.1	3.3	0.82
4	13.8	6.2	1.1	0.2	56.2	11.28	2.1	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として和泉、仁和西統があるが、本統は扇状堆土であることにより区分した。

施肥改善土壌類型 K 礫質土壌95 壤土満俺型

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(扇状堆土)

B 地 形

やや緩傾斜

C 気 候

年平均気温7.0°C、年降水量1084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

大部分稲単作である。

E 農業上の留意事項

土性が粗粒質で、下層が礫層であるため、やや透水性が大きい。そのため、土壌養分が少なく、保肥力も小さい。深耕(約30cm)をおこない、良質粘土施用により、保肥力を高め、さらに有機物の施用により、窒素地力を増すことが必要である。また珪カル施用、塩基の補給も併せておこなうことがよい。

F 分 布

勇払郡穂別町安住に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
安 住 - 安 住	In Id f

後、構造は均質連結状で、ち密度1.2の中程度、可そ性、粘着性中程度、糸根状、膜状の酸化沈積物有り。湿めり湿、下層への境界湿。

第3層の厚さ10cm内外、腐植を欠き、土性はSである。色は2.5Y、彩度2、明度6前後、単粒状構造で、湿めり湿である。下層への境界明瞭である。

第4層の厚さ20cm内外、腐植を欠き、ヨシを含む。土性はHCが主である。色は10Y、彩度1、明度5程度である。発達弱度の塊状構造で、ち密度1.3で中程度、可そ性、粘着性強である。雲状、管状の酸化沈積物含む。湿めり潤、下層への境界漸変である。

第5層は約47cm以下、腐植を欠き、土性はHCが主である。色は7.5GY、彩度1、明度5程度、構造は均質連結状で、ち密度8の中程度、可そ性、粘着性強、管状の酸化沈積物含む。湿めり潤。

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町富内 試坑 36

第1層	0~12cm	腐植を含む灰褐(10YR4/2)のSC、粒状構造、粘着性、可そ性中、糸状、糸根状、膜状の斑紋含む。pH(H ₂ O)、湿めり湿、境界不明瞭
第2層	12~17cm	腐植を含む灰色(2.5GY6/1)のSCL、均質連結状、ち密度1.2で中、可そ性、粘着性中、糸根状、膜状の斑紋有り。pH(H ₂ O)湿めり湿、境界明瞭。
第3層	17~27cm	腐植を欠く灰色(2.5Y6/2)のS、粒状構造、ち密度1.3で中、湿めり湿、境界明瞭。
第4層	27~31cm	ヨシを含む灰褐(5Y4/1)のHC、均質連結状構造、ち密度1.3で中可そ性、粘着性強、湿めり湿、境界明瞭。
第5層	31~47cm	ヨシを含む灰色(10Y5/1)のHC、発達弱度の均質連結状構造、可そ性、粘着性強、ち密度1.3で中、雲状、管状の斑紋含む。湿めり潤、pH(H ₂ O)
第6層	47cm以下	腐植を欠く青色(7.5GY5/1)のHC、均質連結状構造、ち密度8で深、可そ性、粘着性強、管状の斑紋あり。湿めり潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %	pH		置換 酸度 Y ₁
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl	
1	0~12	2.8	44.9	12.4	16.1	26.6	SC	1.91	0.217	8.8	3.3	5.6	4.4	2.5
2	12~17	2.7	49.7	9.5	17.9	22.9	SCL	1.86	0.217	8.6	3.2	5.6	4.5	1.9
5	31~47	6.8	5.8	9.3	38.7	46.2	HC	3.42	0.357	9.7	5.9	5.5	4.4	2.1

層位	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態りん酸 mg/100g P ₂ O ₅	乾土 効果	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄%
		CaO	MgO	K ₂ O					乾土	湿土	
1	15.7	5.7	2.2	0.1	52.3	84.6	5.9	5.7	7.6	1.9	1.85
2	15.6	5.3	2.0	0.1	48.9	96.7	5.6	8.9	11.1	2.2	1.85
5	46.6	14.5	8.9	0.3	54.8	141.5	4.1	—	—	—	—

A 土壌区の特徴

当土壌区は富内南統に属する。表土の厚さ17cm内外、有効土層1m以上で深い。表土の土性強粘質で、やや耕起、碎土に困難を感じる。

自然肥沃度中程度、養分も中庸であり、特に加里と窒素が少ない。

B 植生及び利用状況

水稻単作に利用されている。

C 地力保全上の問題点

排水が必要であり、暗渠排水の完全実施が望ましい。また漸次深耕をおこない根の活力をつける必要がある。

D 分 布

勇払郡穂別町富内

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

畑

隆 農 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ25cm内外、腐植含量2.3%内外、土性はL～Sが主である。色は10YR、彩度1明度2～3である。細半角礫(浮石)を含む。構造は単粒状で、ち密度5で疎、粘着性、可塑性はなし、調査時の湿めり半乾、下層への境界は明瞭～不規則である。

第2層の厚さ5cm内外、腐植がなく、砂礫層である。礫は細小半角礫(浮石)である。色は2.5Y彩度2、明度7が主である。調査時の湿めり乾、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ約10cm内外、腐植含量1.1%内外、土性はLが主である。色は10YR、彩度1、明度1が多い。構造は粒状～小塊状であり、ち密度2.1前後で中である。可塑性、粘着性は弱、調査時の湿めり半湿、下層への境界漸変。

第4層の厚さ15cm内外、腐植含量8%内外、土性はSLが主である。色は10YR、彩度1、明度3前後である。構造は小塊状が多く、細小中孔に富む。ち密度1.6前後で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、下層への境界は漸変である。

第5層の厚さ15cm内外、腐植含量1.7%内外、土性はLが主である。色はN、明度1～2が主である。構造は小塊状であり、細小孔に富む。ち密度は1.7前後で中、可塑性、粘着性弱、湿めりは半湿、下層への境界は漸変である。

第6層の厚さ17cm内外、腐植に富む程度、土性はLが主である。色は10YR、彩度2、明度2前後、腐朽の半角礫を含む。構造は塊状が多い。細小中孔に富む。ち密度1.7前後で中、可塑性、粘着性弱、湿めり湿、下層への境界漸変。

第7層は約8.7cm以下に存在、腐植を含む程度、土性はLが主である。色は10YR、彩度3、明度3前後、風化～腐朽の半角礫(浮石)に富む。構造は塊状が主であり、細小中孔に富む。可塑性、粘着性弱、湿めりは湿。

以上全層樽前火山の降下物であり、第1層が樽前a、b(Ta-a、Ta-b)の火山灰、第2層は樽前b火山灰、第3～4層は樽前c(Ta-c)火山灰、第5～7層は樽前d(Ta-d)火山灰であると思われる。

代表的断面形態

(所在地) 勇払郡穂別町隆農 試抗 101

第1層	0~27 cm	腐植を含む黒色(10YR2/1)のS、単粒状構造、細小半角礫(浮石)を含む。湿めり半乾、pH(H ₂ O)6.2、境界不規則、Ta-a、b火山灰
第2層	27~30 cm	腐植を欠く砂色、礫は細小半角礫(浮石)、湿めり乾、境界明瞭。Ta-b火山灰
第3層	30~40 cm	腐植に頗る富む黒色(10YR1/1)のL、粒状、小塊状構造、細小孔に富む。ち密度21で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、pH(H ₂ O)6.2、境界漸変。Ta-c火山灰
第4層	40~55 cm	腐植に富む黒色(10YR3/1)のSL、発達弱度の塊状構造、細小中孔に富む、ち密度16で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、pH(H ₂ O)6.1、境界漸変。Ta-c火山灰
第5層	55~70 cm	腐植に頗る富む黒色(N2/0)のL、発達弱度~中度の小塊状構造、細小孔に富む。ち密度17で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、pH(H ₂ O)5.9、境界漸変。Ta-d火山灰。
第6層	70~87 cm	腐植に富む灰褐色(10YR2/2)のL、半風化~腐朽の細小中半角礫(浮石)を含む。発達弱度の小塊状構造、細小中孔に富む。可塑性、粘着性弱、湿めり湿、境界漸変。Ta-d火山灰
第7層	87 cm以下	腐植を含む黄褐色(10YR3/3)のL、風化~腐朽の細小中半角礫含む発達弱度の塊状構造、可塑性、粘着性弱、湿めり湿、Ta-d火山灰

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~27	0.5	75.6	18.8	4.3	1.3	S	1.33	0.104	12.8	2.3
3	30~40	6.3	42.8	21.3	28.1	2.8	L	6.67	0.610	10.9	11.5
4	40~55	4.2	61.1	21.0	14.9	3.0	SL	4.81	0.408	11.8	8.3
5	55~70	10.8	33.3	28.8	30.1	7.8	L	9.92	0.798	11.6	17.1

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.1	0.30	6.5	3.0	0.5	0.1	45.6	446	27.3
3	6.2	5.1	0.30	34.6	14.7	1.1	0.2	42.6	2,164	tr
4	6.1	5.1	0.30	21.8	5.7	0.8	0.1	26.0	1,963	tr
5	5.9	4.9	0.30	55.4	9.6	4.8	0.3	17.4	2,839	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として隆農統が存在する。本統は埋没土層における腐植が深いこと、また位置する

5～10%程度あり、土性はSで、耕起、碎土は容易である。透水性大きく、保水力が小さいため過干の恐れがやや大きい。

保肥力中、固定力小、塩基状態良好で自然肥沃度は高い。石灰、加里は少なく、苦土は中庸、燐酸多い。極めて土性が粗いため、傾斜地における侵蝕が大きいといえる。

B 植生及び利用状況

ビート、アスパラガス、馬鈴薯等に多く利用されている。

C 地力保全上の問題点

保水力、保肥力がかなり小さいので、それを高める必要がある。良質粘土の投入、有機物の施用が良いが、混層耕により、下層の腐植層と表層を混ぜることも良い。この場合石灰資材、燐酸資材の投入を併せ行う必要がある。石灰、加里などの塩基が少ないのでこれ等を補給する必要があり、特にこれ等の溶脱が大きいので常に塩基の補給に留意する必要がある。

D 分 布

勇払郡穂別町隆農への分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

稲 里 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ17cm内外、腐植含量6%内外、土性はSLが主である。色は10YR、彩度1、明度1～2、構造は発達中度の粒状構造で、ち密度9～10程度で疎、可塑性、粘着性は弱である。湿めり半湿、下層への境界漸変。

第2層の厚さ13cm内外、腐植含量6%内外、土性はSLが主である。色は10YR、彩度2、明度3程度、発達弱度の塊状構造を持ち、細小中孔に富む。ち密度17前後で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ13cm内外、腐植含量8%内外、土性はSLが主である。色は10YR、彩度2、明度2程度、発達弱度の塊状構造を持ち、細小中孔に富む。ち密度16内外で中、可塑性、粘着性弱である。湿めり半湿、下層への境界漸変。

第4層の厚さ17cm内外、腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YR、彩度3、明度3程度発達弱度の塊状、小塊状構造、ち密度15前後で中である。可塑性、粘着性弱、湿めり湿、下層への境界漸変。

第5層は約60cm以下、腐植を欠き、土性はLが主である。色は5YR、彩度6、明度4程度、風化～腐朽の細小中半角礫（浮石）に頗る富む。構造は発達弱度の塊状構造、細小中大の孔げきに富む。ち密度15で中、可塑性、粘着性は弱、湿めり湿。

以上1層目T a - c、2～5層T a - d火山灰である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 勇払郡穂別町穂里 試抗 105

第1層	0～17cm	腐植に富む黒色（10YR1/1）のSL、発達中度の粒状構造、ち密度9で疎、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、pH（H ₂ O）5.9、境界漸変
-----	--------	--

第2層	17~30 cm	腐植に富む灰褐色(10YR1/1)のSL、発達弱度の塊状構造、細小中孔富む。ち密度17で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、pH(H ₂ O) 6.3、境界明瞭。以上Ta-c火山灰
第3層	30~43 cm	腐植に富む黒色(10YR2/2)のSL、発達弱度の塊状構造、細小中孔に富む。ち密度16で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、pH(H ₂ O) 6.3、境界漸変。
第4層	43~60 cm	腐植を欠く黄褐色(10YR3/3)のSL、発達弱度の小塊状、塊状構造細小中孔に富む。ち密度15で中、可塑性、粘着性弱、湿めり湿、pH(H ₂ O) 6.2、境界漸変。
第5層	60 cm以下	腐植を欠く黄褐色(5YR4/6)のL、風化~腐朽の小中半角礫(浮石)に頗る富む。発達弱度の塊状構造、細小中大孔げきに富む。ち密度15で中、可塑性、粘着性弱、湿めり湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性 %	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~17	2.4	48.2	30.7	12.8	8.3	SL	3.77	0.340	11.1	6.5
2	17~30	5.4	59.1	20.8	18.4	1.7	SL	3.60	0.421	8.6	6.2
3	30~43	10.4	42.9	36.0	20.7	0.7	SL	5.05	0.467	10.8	8.7
4	43~60	12.4	26.2	58.6	11.7	3.5	SL	—	—	—	—
5	60~	13.1	29.2	32.1	32.0	6.7	L	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	0.60	17.3	5.2	0.9	0.2	2.99	1.165	13.1
2	6.3	5.3	0.30	18.8	5.0	0.6	0.2	2.66	2.050	8.9
3	6.3	5.3	0.30	29.5	8.8	1.0	0.2	2.97	1.501	tr
4	6.2	5.4	0	39.4	8.8	1.1	0.2	2.23	2.858	tr
5	6.4	5.5	0	34.2	6.3	3.1	0.5	18.4	2.834	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統は全層が壤質からなり、腐植層がかなり深いことにより他の統と区別される。また別の面からいえば、表層が樽前火山灰C(Ta-c)があり、下層が樽前火山灰d(Ta-d)であり、Ta-a、Ta-bが見られない点が他の統と相違する。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積

B地形

やや緩傾斜の台地

C 気 候

年平均気温 7.0℃、年降水量 1,084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

アスパラガス、ビート、馬鈴薯、デントコーン、小豆

E 農業上の留意事項

土壌中の塩基が少ないので、塩基の補給をする必要がある。

F 分 布

勇払郡穂別町稲里に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
稲 里 一 稲 里	II(w)n

② 土壌区別説明

稲 里 一 稲 里

示性分級式(畑)

土表有表耕	表表表	土透保湿	自保固	養置有微障	災有物	傾地増	傾自傾人	侵耐
壤効土	土土土	然	層分換	の性態量	害理冠す	物的水り	然斜為	水風
産力の	層のの	乾の粘	水水潤肥	塩の石苦加	害質障害	ののの	の傾	蝕蝕
可能の	礫の	土着の	沃	基灰土里	有	危危	傾方	蝕蝕
性厚深	含難	性性さ	性性度	力力態	量	素度	無性	度度
等	性性	性性度	力力態	量	素度	無性	度度	度度
級さ	量易	性性度	力力態	量	素度	無性	度度	度度
II	t d g p	w	f	n	i	a	S	e
II	I I I I 1 1 1 (II)	2 2 2	I 2 2 1	II 2 2 2 1 2 2	I 1 1	I 1 1	I 1 S 1	I 1 1 1
簡略分級式	II(w)n							

A 土壌区の特徴

当土壌区は稲里統に属する。表土の厚さ30cm内外、有効土層1m以上で深い。表土に礫がなく、土性は壤質であり、粘着性も弱いので、耕起、碎土は容易である。透水性、保水性とも中庸で、過干の恐れがある。

肥力、固定力中庸、土層の塩基状態良好で自然肥沃度高い。石灰、苦土、加里含量中庸、磷酸多で土壌中の養分は中庸である。

B 植生及び利用状況

ビート、デントコーン、馬鈴薯、アスパラガス、小豆、牧草等に利用されている。

C 地力保全上の問題点

深耕（30 cm 程度）をおこない、併せて堆肥、緑肥等の有機物、並びに石灰、磷酸等を施用することが良い。

D 分 布

勇払郡穂別町 稲里に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日

和 泉 下 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ22 cm 内外、腐植含量2.5% 内外、土性はSLが主である。色は10 YR、彩度1、明度4程度、細小半角礫(浮石)を含む。構造は主に粒状で、ち密度22で中程度、可そ性、粘着性はほとんどない。湿めり半乾、下層への境界は明瞭である。T a - b 火山灰。

第2層は厚さ40 cm 内外、腐植なく、主に砂〜砂礫層である。礫は細小半角礫(浮石)である。湿めり半乾、下層への境界明瞭である。T a - b 火山灰。

第3層は厚さ10 cm 内外、腐植に頗る富み、土性はLが主である。色は10 YR、彩度1、明度1、構造は発達弱度の塊状構造、ち密度13程度で中、可そ性、粘着性弱、湿めり半湿、下層への境界漸変である。

第4層は厚さ12 cm 内外、腐植を含み土性はSLである。色は10 YR、彩度3、明度3である。構造は発達弱度の塊状構造、可そ性、粘着性とも弱、湿めり半湿、下層への境界漸変。

第5層は80 cm 以下で、腐植を欠き、土性はLが主である。色は10 YR、彩度3、明度5前後である。構造は発達弱度の塊状構造、ち密度13程度で中、可そ性、粘着性は中程度、湿めり半湿。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 勇払郡穂別町和泉下 試抗 127

第1層	0 ~ 22 cm	腐植を含む灰褐(10 YR 4 / 1)のS、ち密度22で中、湿めり半乾、pH (H ₂ O) 6.3、境界明瞭。T a - a、b 火山灰
第2層	22 ~ 44 cm	腐植を欠く灰褐(10 YR 8 / 2)のS、ち密度18で中、湿めり半乾、境界明瞭。T a - b 火山灰
第3層	44 ~ 60 cm	腐植を欠く灰褐(10 YR 7 / 2)の砂礫層、礫は細小半角礫(浮石)である。湿めり半乾、境界明瞭。
第4層	60 ~ 68 cm	腐植に頗る富む黒色(10 YR 1 / 1)のL、発達弱度の塊状構造、ち密度13で中、可そ性、粘着性弱、湿めり半湿、境界漸変。
第5層	68 ~ 80 cm	腐植を含む黄褐(10 YR 3 / 3)のSL、発達弱度の塊状構造、ち密度14で中、可そ性、粘着性弱、湿めり半湿、境界漸変。
第6層	80 cm 以下	腐植を欠く黄褐(10 YR 5 / 3)のL、発達弱度の塊状構造、ち密度13で中、可そ性、粘着性中、湿めり半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭 素 %	全窒 素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~22	1.3	84.9	8.3	5.8	1.0	S	1.45	0.136	10.6	2.5

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.2	0.30	7.8	3.4	0.2	0.1	44.2	591	14.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては隆農南、隆農、仁和下統が存在するが、本統は腐植を含まない砂層が厚く、排水が極めて良いことにより区別される。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積

B 地形

やや緩傾斜の台地

C 気候

年平均気温 7.0℃、年降水量 1,084 mm

D 植生及び利用状況

ビート、アスバラガス、馬鈴薯、小豆、デントコーン、牧草に利用。

E 農業上の留意事項

過干の恐れが大きいため保水力を高める。また塩基が少ないので塩基の補給につとめる。

F 分布

北海道勇払郡穂別町和泉下に分布

調査及び記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
和泉下 - 和泉下	II(w)e II n

② 土壌区別説明

和泉下 - 和泉下

示性分級式(畑)

土表有表耕	壤効土耘	表表表	土土土	透保湿	保固土	養置	層分換	有微酸	障有物	災增地	傾自傾人	侵耐耐
生土土	土土土	土土土	地	然	層分換	の性	効	害理冠す	害害冠す	害害冠す	害害冠す	害害冠す
産力の層	ののの	ののの	の風	乾の水	潤肥肥	定塩	石苦加	磷	害質	害質	害質	害質
可能の礫	の粘	土土	乾	沃	基	豊	否	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
性厚深	難土着	硬	性性	性性	力力	態	量	度	性	性	斜	斜
等	含	性性	湿	度	否	量	度	性	性	性	性	性
級さ	量易	量易	量易	量易	量易	量易	量易	量易	量易	量易	量易	量易
Ⅱ	t d g p	w	f	n	i	a	s	e				
	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ	(Ⅲ) 3 3 3	Ⅱ 2 1 1	Ⅱ 2 3 3	1 2 1	Ⅱ 1 1 1	Ⅱ 1 1 1	Ⅱ 1 1 1	Ⅱ 1 1 1	Ⅱ 1 1 1	Ⅱ 1 1 1	Ⅱ 1 1 1
簡略分級式	Ⅱ (w) e Ⅱ n											

A 土壤区の特徴

当土壤区は和泉下統に属する。表土の厚さ22cm内外、有効土層1m以上で深い。表土の土性が砂質で、粘着性がないので、耕起、碎土が容易である。保肥力中、固定力小、塩基状態良好で、自然肥沃度が高い。石灰含量中庸で、苦土、加里が少ない。有機物少なく、土性も粗いので、傾斜地においては侵蝕が極めて大きい。

B 植生及び利用状況

ビート、アスパラガス、馬鈴薯、小豆、デントコーン、牧草に利用。

C 地力保全上の問題点

保肥力、保水力をつけることが必要であり、良質粘土、有機物の施用が必要である。また同時に石灰、苦土、加里等の塩基を補給することも必要である。

D 分布

勇払郡穂別町和泉下に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

隆 農 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ約16cm内外、腐植含量3.0%前後、土性はSである。色は10YR、彩度1、明度2程度、ち密度が5程度で中、可塑性、粘着性をなし、湿めり半乾。(T a-a, b)

第2層の厚さ約10cm内外、腐植を欠く砂礫層、礫は細小半角礫(浮石)である。湿めり半乾、下層への境界明瞭。(T a-b)

第3層の厚さ約6cm内外、腐植含量1.1%内外、土性はSLが主である。色は10YR、彩度1、明度1である。構造は発達弱度の小塊状構造、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、下層への境界漸変。(T a-c)

第4層の厚さ25cm内外、腐植含量6.6%内外、土性はLSが主である。色は10YR、彩度2、明度2程度、構造は発達弱度の小塊状構造、可塑性、粘着性無~弱である。湿めり半湿、境界漸変である

(T a - c)

第5層の厚さ16cm内外、腐植を含み、土性はLが主である。色は10YR、彩度2、明度3前後、発達弱度の小塊状構造、ち密度16で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、下層への境界漸変(T a - d)

第6層は約72cm以下、腐植を欠き、土性はLが主である。色は7.5YR、彩度3、明度4程度、風化~腐朽の小中半角礫(浮石)に富む。発達弱度の塊状構造、可塑性、粘着性弱~中程度である。湿めり半湿~湿。

代表的断面形態

(所在地) 勇払郡穂別町隆農 試抗 102

第1層	0~16cm	腐植を含む黒色(10YR2/1)のS、細小半角礫(浮石)含む。単粒状構造、ち密度5で疎、PH(H ₂ O)6.2、湿めり半乾、境界不規則(T a - a、b火山灰)
第2層	16~25cm	腐植を欠く灰色(2.5Y7/2)の砂礫層、礫は細小半角礫(浮石)、湿めり半乾、境界明瞭。(T a - b火山灰)
第3層	25~31cm	腐植に頗る富む黒色(10YR1/1)のSL、発達弱度の小塊状構造、ち密度15で中、可塑性、粘着性弱、PH(H ₂ O)6.2、湿めり半湿、境界漸変。(T a - c火山灰)
第4層	31~56cm	腐植に富む黒色(10YR2/2)のLS、発達弱度の小塊状構造、ち密度12で中、可塑性、粘着性弱、p ^H (H ₂ O)6.4、湿めり半湿、境界漸変。
第5層	56~72cm	腐植を含む灰褐(10YR3/2)のL、風化、腐朽の小中半角礫(浮石)を含む。発達弱度の小塊状構造、ち密度16で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、境界漸変。(T a - d火山灰)
第6層	72cm以下	腐植を欠く黄褐(7.5YR4/3)のL、風化~腐朽の小中角礫に富む。発達弱度の塊状構造、可塑性、粘着性弱、湿めり湿。(T a - d火山灰)

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~16	0.9	89.0	6.0	2.7	2.3	S	1.74	0.129	13.5	3.0
3	25~31	5.2	46.1	24.0	22.0	7.9	SL	6.61	0.419	15.8	11.4
4	31~56	5.8	41.7	43.9	12.1	2.3	LS	3.83	0.319	12.0	6.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.30	6.8	3.8	0.4	0.1	56.4	505	10.9
3	6.2	5.2	0.30	37.6	20.3	1.9	0.2	54.0	2140	tr
4	6.4	5.4	0.30	14.2	8.1	0.9	0.1	57.1	2080	tr

A-2 他ノ土壤統との関係

本統と類似する統として隆農南統が存在する。本統は埋没腐植層が浅いこと、また隆農南統よりもさらに標高の高い台地に存在し、侵蝕も大きいことにより区別した。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積

B 地形

やや緩傾斜の台地

C 気候

年平均気温 7.0℃、年降水量 1,084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

一般に畑作物（ビート、アスパラガス、馬鈴薯）に利用されている。

E 農業上の留意事項

保肥力、保水力をつけることが必要であり、塩基の補給に留意する必要がある。

F 分布

勇払郡穂別町隆農に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
隆 農 一 隆 農	III e II t(w) ni

② 土壌区別説明

隆 農 一 隆 農

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤効土土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地
生土土	土耘土土	然	層分換	の性	効	害理	冠す
産力の	ののの	の風	の性	態量	物的	害害	水り
可の	ののの	の粘	の性	量	害質	害の	のの
能厚深	ののの	土着便	沃	状豊含	害の	危危	傾傾
性等	ののの	性性	力力	量	害の	險險	方
級ささ	量易	湿	度	否	素度	無性	度度
II I I I	1 1 1	(II) 3 2 2	I 2 1 1	II 2 3 3 1 2 1	II 1 2	I 1 1	I 1 s 1 III 3 2 2
簡易分級式	III e II t(w) ni						

A 土壌区の特徴

当土壌区は隆農統に属する。表土の厚さ16cm内外でやや浅く、有効土層が1m以上で深い。表土の礫含量10%内外で細小の半角礫を含む。表土の土性が砂質で、粘着性が悪いので、耕起、碎土は容易である。透水性が大きく、保水力が中庸であり、過干の恐れがある。保肥力中、固定力小、塩基状態良好で、自然肥沃度が高い。石灰含量中庸、苦土、加里小で養分は中庸である。有機物少なく、土性が粗いので傾斜地における侵蝕が極めて大きい。

B 植生及び利用状況

ビート、アスパラガフ、デントコーン、小豆、馬鈴薯、エン麦等の栽培に利用されている。

C 地力保全上の問題点

透水性が極めてよく、保水力が小さいので過干の恐れがあり、保肥力が小さく、塩基の溶脱も大きいので、それらの対策が必要である。土層の均一化と保水力を高めるため、混層耕(40cm前後)をおこなうのが良い。同時に酸性矯正、磷酸の施用、有機物(堆肥、緑肥)の施用が必要である。

D 分 布

勇払郡穂別町隆農に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

仁 和 下 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ23cm内外、腐植含量2.0%内外、土性はSが主である。色は10YR、彩度1、明度3前後、ち密度13前後で中、湿めり半乾、下層への境界は明瞭。

第2層の厚さ13cm内外、腐植を欠き、土性はSである。色は2.5Y、彩度2、明度7前後、ち密度8で疎、湿めり半乾、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ20cm内外で、砂礫層である。礫は細小半角礫(浮石)である。湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第4層の厚さ15cm内外、腐植含量1.0%内外、土性はLが主である。色は10YR、彩度2、明度3が主である。発達弱度の塊状構造、細小孔に富み、ち密度6前後で疎である。糸根状の酸化沈積物を含む。湿めり湿、下層への境界漸変。

第5層の厚さ17cm内外、腐植を含み、土性はLが主である。色は10YR、彩度2、明度3程度である。発達弱度の塊状構造で、ち密度6前後で疎、可塑性、粘着性弱、糸根状、膜状の酸化沈積物を含む。湿めり潤、下層への境界漸変。

第6層は約86cm以下、腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は2.5GY、彩度1、明度7前後ち密度5前後で疎、可塑性、粘着性弱、管状の酸化沈積物含む。湿めり潤。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 勇払郡穂別町仁和下 試抗 133

第1層	0~23cm	腐植を含む黒色(10YR3/1)のS、ち密度13で中、pH(H ₂ O)5.8、湿めり半湿、境界明瞭。(Ta-a、b)
第2層	23~35cm	腐植を欠く灰色(2.5Y7/2)のS、ち密度8で疎、湿めり半乾、境界明瞭。(Ta-b)

第3層	35～54 cm	腐植を欠く黄褐(5YR3/4)の砂礫層、礫は細小半角礫(浮石)である。膜状の酸化沈積物に富む。湿めり湿、境界明瞭。
第4層	54～69 cm	腐植に頗る富む灰褐(10YR3/2)のL。弱度の小塊状構造、細小孔に富む。ち密度6で疎、可塑性、粘着性中、糸根状の酸化沈積物含む。湿めり湿、境界漸変。
第5層	69～86 cm	腐植を含む灰褐(10YR3/2)のL、弱度の小塊状構造、ち密度6で疎、可塑性、粘着性弱～中、糸根状、膜状の酸化沈積物含む。湿めり潤、境界漸変。
第6層	86 cm 以下	腐植を欠く青灰(2.5GY7/2)のLiC、ち密度5で疎、可塑性、粘着性强、管状の酸化沈積物含む。湿めり潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～23	0.5	85.6	10.2	2.2	2.0	S	1.16	0.116	10.0	2.0
4	54～69	6.1	—	—	—	—	—	6.09	0.601	10.1	10.5

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.8	0.60	5.2	0.7	1.3	0.2	12.6	4.67	18.1
4	6.0	5.1	0.30	31.6	7.1	2.4	0.3	22.5	2.576	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として、和泉下統が存在するが、本統は下層が極めて湿潤であり、母材が相異なることにより区別される。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積

B 地形

やや緩傾斜の台地

C 気候

年平均気温7.0℃、年降水量1,084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

デントコーン、ビート、アスパラガス、牧草、エン麦等の栽培に利用されている。

E 農業上の留意事項

過干の恐れが大きいこと、保肥力が極めて小さいこと、土壌中の養分が少ないことに留意し、有機物の補給、良質粘土の投入、塩基の補給につとめる必要がある。

F 分布

勇払郡穂別町仁和下に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
仁和下 — 仁和下	Ⅱ(w)e Ⅱfna

② 土壌区別説明

仁和下 — 仁和下

示性分級式(畑)

<p>土表有表耕 土 養 置 有微酸 障 災 傾 侵 耐</p> <p>壤 効土 表表土 透保湿 自保固土 層分 換〃〃効 有物 增地 傾 自傾人 侵 耐</p> <p>生土土 耘土土の 地 然 層性 性 害理 冠す 然斜為 水風</p> <p>産力の 層の のの 風 土 潤肥肥定塩の 石苦加磷 害質 害の のの 傾 傾 蝕</p> <p>可能 の 礫 の 乾の 水水潤肥肥定塩の 灰土里酸要 の 害 障 危危 傾 蝕</p> <p>性厚深含 難土着 硬乾 沃 基 状豊含〃〃 有 害 險險 方 蝕</p> <p>等 性性 性性 性性 度 力力 態 量 素度 無性 度度 斜向斜 度性性</p> <p>級ささ量易 湿 度 否 性 性 斜 蝕</p>	<p>t d g p w f n i a s e</p> <p>Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅱ Ⅲ Ⅲ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅲ Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅰ Ⅰ Ⅲ Ⅲ Ⅱ Ⅱ</p> <p>簡略分級式 Ⅱ(w)e Ⅱfna</p>
---	---

A 土壌区の特徴

当土壌区は仁和下統に属する。表土の厚さ23cm内外、有効土層1m以上で深い。表土に礫なく、土性は砂質で、粘着性もないため、耕起、碎土は容易である。透水性が極めて良好なため過干の恐れが大きい。下層が湿性なため、一時的過干の恐れがあると思える。保肥力が小さく、そのために土壌中の石灰、苦土、加里が少ない。

B 植生及び利用状況

主にビート、デントコーン、牧草、馬鈴薯等に利用されている。

C 地力保全上の問題点

保肥力を大きくすることが必要であり、そのために良質粘土の投入が必要である。また堆厩肥、緑肥等の施用により有機物含量を増して、地力の増進をはかり、併せ保肥力を高めることがよい。

D 分 布

勇払郡穂別町仁和下に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

豊 田 南

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15 cm内外、腐植含量3 %前後、土性はLが主である。色は10 YR、彩度2、明度4前後、未風化、半風化の細小角礫を含む。構造は弱度の粒状が主である。ち密度18内外で中、可塑性粘着性とも中程度、湿めり半湿、下層への境界不明瞭。

第2層の厚さ約10 cm内外、土性はSCLが主である。色は10 YR、彩度2、明度3が主、細小半角礫(浮石)に富む。構造は弱度の塊状が多い。ち密度15前後で中、湿めり半湿、境界は不規則。

第3層の厚さ約7 cm内外、腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10 YR、彩度3、明度4前後細小半角(浮石)を含む。構造は弱度の塊状が主である。ち密度15前後で中、可塑性、粘着性は中程度、湿めり湿、下層への境界不規則。

第4層は約32 cm以下であり、砂層～砂礫層となつている。礫は半風化、風化の小中角礫である。湿めり潤。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 勇払郡穂別町豊田 試抗 125

第1層	0～15 cm	腐植を含む灰褐(10 YR 4/2)のL、未風化、半風化の細小角礫に富む。弱度の粒状構造、ち密度18で中、可塑性、粘着性中、pH(H ₂ O) 5.4、湿めり半湿、境界不明瞭。
第2層	15～25 cm	腐植を欠く灰褐(10 YR 3/2)のSCL、細小半角礫(浮石)に富む弱度の塊状構造、ち密度17で中、可塑性、粘着性中、pH(H ₂ O) 6.0、湿めり半湿、境界不規則。
第3層	25～32 cm	腐植を欠く黄褐(10 YR 4/3)のSL、細小半角礫(浮石)を含む。弱度の塊状構造、ち密度15で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、境界明瞭。
第4層	32～52 cm	腐植を欠く黄褐(10 YR 1/3)のS、単粒状構造、ち密度4で疎、湿めり湿、境界不規則。
第5層	52 cm以下	腐植を欠く灰色(5 Y 4/1)のS、半風化～風化の小中角礫を含む。湿めり潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0～15	2.6	43.2	21.4	20.8	14.6	L	1.80	0.139	13.0	3.1
2	18～25	2.3	52.3	17.6	13.3	16.8	SCL	1.04	0.114	9.1	1.8

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.6	0.60	17.1	9.9	3.0	0.7	58.0	7.40	16.0
2	6.0	4.8	0.30	15.5	9.5	2.6	0.4	61.1	7.19	13.9

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として二俣南統が存在するが、本統とは堆積様式の相違により区分される。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地 形

やや低い平地

C 気 候

年平均気温 7.0℃、年降水量 1,084mm、内陸性の気候。

D 植生及び利用状況

主にデントコーン、ビート、馬鈴薯、牧草、エン麦等に利用されている。

E 農業上の留意事項

作土の保肥力がやや小さいので、深耕、有機物補給等により保肥力を高める必要がある。

F 分 布

勇払郡穂別町豊田に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊田南 — 豊田南	IIg(w)fa

② 土壌区別説明

豊田南 — 豊田南

示性分級式(畑)

土表有表耕	表表表	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効土	土土土	透保湿	保固土	置換	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生土	耘土	土地	然	層分	効	害理	冠す	斜為	水風
産土の	のの	の風	の	の性	態量	害質	物的水	然斜	為
力の層	のの	の粘	の水	潤肥定	塩	害障	のの	傾傾	蝕蝕
可能厚	の難	土着	乾	沃	基	の害	の危	方	
性等	深含	性性	性性	力力	態量	有無	性性	斜斜	度性
級さ	さ量	易	湿	度	否	素度	性性	斜斜	度性
II	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	I I I I	1 1 1 (H)	2 2 2	I I I I I I I I	2 I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	
簡略分級式 II g (w) f a									

A 土壤区の特徴

当土壤区は豊田南統に属する。表土の厚さ25cm内外、有効土層1m以上で深い。表土に礫を10%内外含む。透水性がやや大きいので、過干の恐れがややある。保肥力、固定力中、塩基状態良好で自然肥沃度は中程度、有効態養分はいずれも高い。

B 植生及び利用状況

主にビート、デントコーン、馬鈴薯、などの畑作物である。

C 地力保全上の問題点

保肥力がやや小さいので、深耕(25~30cm)により保肥力を高め、併せ有機物(堆肥、緑肥)の施用により地力を高める必要がある。

D 分布

勇払郡樺別町豊田

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

似 湾 沢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ22cm内外、腐植含量2.8%内外、土性はS、色は10YR、彩度1、明度3前後、単粒状構造で、ち密度15で中、湿めり半乾、下層への境界明瞭である。

第2層の厚さ43cm内外、腐植を欠き、砂礫層である。礫は細小半角礫(浮石)である。湿めり半湿下層への境界明瞭である。

第3層の厚さ15cm内外、土性はCLが主であり、細小円礫に富む。ち密度15前後で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、下層への境界漸変。

第4層は約80cm以下で、未風化、半風化、風化の細小中円礫からなる礫層である。

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町似湾沢 試坑 137

第1層	0~22 cm	腐植を含む黒色(10YR3/1)のS、単粒状構造、ち密度15で中、湿めり半乾、pH(H ₂ O)6.3、境界明瞭。
第2層	22~65 cm	腐植を欠く灰色(2.5Y7/2)の砂礫層、礫は細小半角礫(浮石)からなる。湿めり半乾、境界明瞭。
第3層	65~80 cm	礫に富む黄褐(10YR5/3)のCL、礫は半風化、風化の小中円礫である。ち密度15で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、下層への境界漸変。
第4層	80 cm以下	未風化、半風化からなる小中円礫層である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~22	0.5	84.8	8.6	4.4	2.2	S	1.62	0.148	11.0	2.8

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.4	0.30	7.4	4.3	0.5	0.1	58.5	3.97	27.7

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として豊田南統が存在するが、本統は表土から砂層であるため区別される。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成)

B 地形

平坦地

C 気候

年平均気温7.0℃、年降水量1084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

主にビート、牧草、馬鈴薯等の畑作物に利用されている。

E 農業上の留意事項

透水性が大きく、保水性が小さいため過干の恐れが大きいこと。保肥力が小さいため溶脱が大きく、土壌中の養分が少ないことなどがあげられ、これらの対策が必要である。

F 分布

勇払郡穂別町似湾沢に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

第1層の厚さ15cm内外、腐植含量15%前後、土性はSLである。色は10YR、彩度1、明度3前後、単粒状構造で、ち密度9で疎、湿めり半乾、下層への境界明瞭。

第2層の厚さ5cm内外、腐植を欠き、土性はSである。色は2.5Y、彩度2、明度8前後、ち密度9前後で疎、湿めり半乾、下層への境界明瞭である。

第3層の厚さ15cm内外、腐植含量13%前後、土性はLが主である。色は10YR、彩度1、明度1前後である。細小半角礫(浮石)に富む。発達弱度の塊状構造を持ち、細小中孔に富んでいる。ち密度12前後で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、境界漸変である。

第4層の厚さ15cm内外、腐植含量4%前後、土性はLSが主である。色は10YR、彩度4、明度3前後、単粒状構造で、ち密度10で中、湿めり半乾、境界明瞭。

第5層の厚さ10cm内外、腐植含量10%内外、土性はSLが主である。色は10YR、彩度3、明度3前後である。未風化～風化の細小角礫を含む。構造は発達弱度の塊状構造であり、ち密度15で中可塑性、粘着性弱である。湿めり半湿、下層への境界漸変。

第6層は厚さ20cm内外、腐植を含み、土性はSである。未風化～半風化の細小角礫に富む。色は7.5YR、彩度4、明度4前後、ち密度15程度で中、湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第7層は約90cm以下で、未風化～半風化の細小角礫に頗る富む。

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町平丘 試坑 114

第1層	0～15cm	腐植に富む黒色(10YR3/1)のSL、構造は単粒状、ち密度9で疎 pH(H ₂ O)6.2、湿めり半乾、境界明瞭。(Ta-a、b)
第2層	15～20cm	腐植に欠く灰色(2.5Y8/2)のS、ち密度9で疎、湿めり半乾、境界 明瞭。(Ta-b)
第3層	20～35cm	腐植に頗る富む黒色(10YR1/1)のL、細小半角礫(浮石)を含む 弱度の塊状構造で、細小中孔に富む。ち密度12で中、可塑性、粘着性弱 pH(H ₂ O)6.2、湿めり半湿、境界漸変。Ta-c
第4層	35～50cm	腐植を含む黄褐(10YR3/4)のLS、細小半角礫(浮石)に富む。 細小孔に富み、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)6.4、湿めり半湿、境界 明瞭。Ta-c
第5層	50～69cm	腐植に頗る富む黄褐(10YR3/3)のSL、未風化～風化の細小角礫 を含む。弱度の塊状構造、ち密度15で中、湿めり半湿、pH(H ₂ O) 境界明瞭。
第6層	69～90cm	腐植を含む黄褐(7.5YR4/4)のS、未風化～風化の細小角礫に富む ち密度15で中、湿めり半湿、境界明瞭。
第7層	90cm以下	腐植を欠く黄褐(7.5YR4/6)で、細小角礫に頗る富む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭 素 %	全窒 素 %	炭 素 率	腐植 %
			粗 成	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~15	1.8	75.3	9.3	8.5	6.9	S L	3.02	0.239	12.6	5.2
3	20~35	6.1	44.1	20.1	23.1	12.7	L	7.95	0.698	11.4	13.7
4	35~50	4.0	63.0	22.4	9.9	4.7	L S	2.67	0.266	10.0	4.6
5	50~69	5.4	30.9	36.1	28.9	4.1	S L	5.97	0.541	11.0	10.3

層位	P ^H		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KO ₂			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.30	14.1	6.0	0.8	0.1	42.8	855	11.0
3	6.2	5.2	0.30	41.6	18.0	2.0	0.1	43.1	2,265	tr
4	6.4	5.4	0.30	14.5	4.0	1.0	0.02	27.6	1,804	tr
5	6.5	5.4	0.30	28.9	8.8	1.1	0.02	30.3	2,688	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として隆農南統が存在する。本統とは下層の母材、並びに堆積様式の相違により区分される。

A-3 母 材

非固結火成岩（50 cm以下に非固結水成岩）

A-4 堆積様式

風積（50 cm以下崩積）

B 地 形

やや緩傾斜の台地

C 気 候

年平均気温7.0℃、年降水量1,084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

主にビート、馬鈴薯、アスパラガス、牧草、小豆等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

透水性がやや大きいため、保水性がやや小さいため過干の恐れがあることと、土壌中の養分が少ないことが見られる。有機物（堆肥、緑肥）を施用し、塩基の補給が必要である。

F 分 布

勇払郡穂別町平丘に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
平 丘 - 平 丘	II(w)ne

4前後、単粒状構造で、ち密度12で中、可塑性、粘着性無し、湿めり半湿、下層への境界不明瞭。

第4層の厚さ約12cm前後、腐植含量4%前後、土性はSLが主である。色は2.5Y、彩度2、明度4前後、未風化～風化の細小中円、半角礫に富む。発達中度の小塊状構造、ち密度13前後で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、境界漸変。

第5層は約52cm以下、腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は2.5Y、彩度2、明度6前後である。未風化～風化の細小中円～半角礫に頗る富む。

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町富内 試抗 116

第1層	0～20cm	腐植を含む黒色(10YR2/1)のLS、単粒状構造、ち密度6で中、可塑性、粘着性なし。湿めり半乾、PH(H ₂ O)6.0、境界明瞭。
第2層	20～30cm	腐植を含む黄褐(10YR3/4)のSL、発達弱度の塊状構造、ち密度15で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半乾、PH(H ₂ O)6.4、境界不明瞭。(T-a-c)
第3層	30～40cm	腐植を欠く黄褐(10YR3/4)のSL、弱度の塊状構造、ち密度12で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半乾、境界明瞭。
第4層	40～52cm	腐植を含む灰色(2.5Y4/2)のSL、未風化～風化の細小中円～半角礫に富む。中度の小塊状構造、ち密度13で中、可塑性、粘着性中、湿めり半湿、境界漸変。
第5層	52cm以下	腐植を欠く灰色(2.5Y6/2)のLiC、未風化～風化の細小中円～半角礫に頗る富む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	1.5	79.8	10.5	5.4	4.3	LS	2.55	0.206	12.3	4.4
2	20～30	3.9	58.4	25.1	15.4	1.1	SL	2.38	0.234	10.0	4.1
4	40～52	9.2	—	—	—	—	SL	2.67	0.267	10.0	4.6

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.9	0.30	11.0	4.0	0.7	0.04	36.7	832	15.8
2	6.4	5.3	0.30	14.3	4.1	0.5	0.1	28.7	1761	tr
4	6.3	4.9	0.30	27.4	11.4	1.4	0.1	41.7	2048	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として平丘統が存在するが、本統は腐植層が浅く、含量も少なく、よりせき薄化されていることにより区別した。

A-3 母材

B 植生及び利用状況

主にビート、馬鈴薯、デントコーン等の栽培に利用されている。

C 地力保全上の問題点

保肥力を高めることが必要であり、良質粘土の客入、有機物の施用等の対策が必要である。さらに燐酸資材の投入、塩基の補給も併せておこなうことが良い。

D 分 布

勇払郡穂別町富内に分布

記載責任者 水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

二 俣 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm前後、腐植含量1.9%前後、土性はSCLが主である。色は10YR、彩度2、明度4前後である。未風化の小中円礫を含む。ち密度13で中、発達弱度の小塊状構造、可塑性、粘着性中程度、湿めり半乾、下層への境界不明瞭。

第2層の厚さ11cm前後、腐植含量1.8%前後、土性はCLが主である。色は10YR、彩度4、明度2前後、小中の円礫に富む。発達弱度の小塊状構造、ち密度19で中、可塑性、粘着性中程度、湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第3層の厚さ30cm内外で砂礫層である。礫は細小半角礫である。

第4層の厚さ10cm内外、灰褐(10YR5/2)のLiC、発達中度の小塊状構造、ち密度16前後で中、可塑性、粘着性中程度、湿めり半湿、下層への境界明瞭。

第5層は約62cm以下、未風化～風化の細小半角礫からなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 勇払郡穂別町二俣 試抗 118

第1層	0～15cm	腐植を欠く灰褐(10YR4/2)のSCL、未風化の小中円礫を含む。発達弱度の小塊状構造、ち密度13で中、可塑性、粘着性中、pH(H ₂ O)5.9、湿めり半乾、境界不明瞭。
第2層	15～26cm	灰褐(10YR4/2)のCL、未風化の小円礫を含む。弱度の小塊状構造、ち密度19で中、可塑性、粘着性中、pH(H ₂ O)5.9、湿めり半乾、境界明瞭。
第3層	26～52cm	未風化、半風化の小中半角礫からなる砂礫層、湿めり半乾、境界明瞭。
第4層	52～62cm	灰褐(10YR5/2)のLiC、中度の小塊状構造、ち密度16で中、可塑性、粘着性中程度、湿めり半湿、境界明瞭。
第5層	62cm以下	未風化、半風化の小中半角礫からなる砂礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭 素 %	全窒 素 %	炭 素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	2.2	36.0	27.9	13.7	22.4	SCL	1.10	0.128	8.6	1.9
2	15~26	2.4	35.4	28.8	20.5	15.3	CL	0.93	0.103	9.0	1.8

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	0.60	15.2	9.5	1.9	0.3	62.5	2.136	24.1
2	5.9	4.7	0.60	14.8	9.7	1.8	0.3	65.7	598	22.1

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として似湾沢統が存在するが、本統は扇状堆土であり、表層の土性が粘質であることにより区分される。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水横(扇状堆土)

B 地形

やや緩傾斜の台地

C 気候

年平均気温7℃、年降水量1,084mm、内陸性気候。

D 植生及び利用状況

主に馬鈴薯、エン麦、デントコーン、ビート栽培に利用。

E 農業上の留意事項

腐植が少ないので有機物の施用が必要である。

F 分布

勇払郡穂別町二俣に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
二俣南 - 二俣南	Ilgp(w)f

② 土壌区別説明

二俣南 - 二俣南

への境界漸変。

第5層は約82cm以下、土性はLが主で、色は10YR、彩度4、明度5前後、未風化、半風化の小中円礫含む。構造は発達弱度の塊状構造、ち密度19前後で中、可塑性、粘着性中程度、湿めり半湿。

代表的断面形態

所在地 勇払郡穂別町仁和 試抗 132

第1層	0~15cm	腐植に富む黒色(10YR3/1)のS、ち密度9前後で疎、湿めり半乾、 pH(H ₂ O)6.1、境界明瞭。(Ta-b)
第2層	15~40cm	細小半角礫(浮石)からなる砂礫層。(Ta-b)
第3層	40~54cm	細小半角礫(浮石)に富む砂層。(Ta-b)
第4層	54~65cm	腐植に富む黒色(10YR2/2)のCL、未風化、半風化の小中円礫含む。発達中程度の塊状構造、ち密度19で中、可塑性、粘着性中程度、 pH(H ₂ O)6.4、湿めり半湿、境界漸変。
第5層	65~82cm	腐植を欠く灰褐(10YR3/2)SL、未風化、半風化の小中円、角礫を含む。中程度の塊状構造、ち密度14で中、可塑性、粘着性弱、 pH(H ₂ O)6.3、湿めり半湿、境界漸変。
第6層	82cm以下	黄褐(10YR5/4)のL、未風化、半風化の小中円礫含む。弱度の塊状構造、ち密度19で中、可塑性、粘着性弱、湿めり半湿、pH(H ₂ O)6.4。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭 素%	全窒 素%	炭 素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	0.1	85.1	6.5	5.1	3.3	S	3.02	0.195	15.5	5.2
4	54~65	6.5	—	—	—	—	CL	5.00	0.411	12.2	8.6
5	65~82	9.4	19.3	49.5	26.3	4.9	SL	—	—	—	—
6	82	7.5	17.5	47.2	28.9	6.4	L	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.5	0.3	12.6	10.0	0.4	0.1	79.5	2,167	—
4	6.4	5.2	0.3	30.2	10.9	1.5	0.7	36.1	2,274	tr
5	6.3	5.2	0.3	33.1	7.3	1.3	0.4	22.0	2,698	tr
6	6.4	5.4	0.3	20.6	3.3	1.1	0.3	15.9	2,406	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として仁和下統が存在する。本統は乾燥型であり、仁和下統は湿性型で低地に存在することにより区分される。

A-3 母材

非固結火成岩(50cm以下、非固結火成岩)

A-4 堆積様式

風積(50cm以下、崩積)

B 地形

やや緩傾斜の台地

C 気候

年平均気温7.0℃、年降水量1084mm、内陸性の気候

D 植生及び利用状況

主にデントコーン、牧草、馬鈴薯、アスパラガスに利用

E 農業上の留意事項

保肥力小さく、固定力が極めて大きいので、有機物、良質粘土を投入し、磷酸資材を施用する必要が
ある。

F 分布

勇払郡穂別町仁和に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
仁 和 - 仁 和	II(w)fe IItn

② 土壌区別説明

仁 和 - 仁 和

示性分級式(畑)

土表有表耕 土 自 養 障 災 傾 侵
 壤 効土耘 表表表 透保湿 保固土 置 有微餓 有物 増地 自傾入 侵耐耐
 生土 土土 土土の 然 層分換 効 害理冠す 然斜為 水風
 産土の ののの 乾の水 水潤肥肥定 塩 の石苦加磷 害質 害の の 蝕蝕
 力の層 礫 粘土の 乾 沃 基豊含 灰土里酸要 有 害 危 傾 傾 蝕蝕
 可厚の 難 着硬 沃 基豊含 灰土里酸要 有 害 危 傾 傾 蝕蝕
 能厚の 難 着硬 沃 基豊含 灰土里酸要 有 害 危 傾 傾 蝕蝕
 性深含 性性さ 性性度 力力態 量 素度 無性 度度 斜向斜 度性性
 等級ささ量易 湿 度 否 量 素度 無性 度度 斜向斜 度性性

II t d g p w f n i a s e
 II I I I 1 1 1 (II) 3 3 3 II 2 4 1 II 1 3 3 1 2 1 I 1 1 I 1 1 I 1 s 1 II 3 2 2

簡 略 分 級 式 II(w)fe IItn

A 土壌区の特徴

当土壌区は仁和統に属する。表土の厚さ15cm内外、有効土層1m以上で深い。透水性大きく、保水性が小さいため、過干の恐れが大きい。保肥力中、固定力極大で、自然肥沃度低い。苦土、加里含量少

なく、石灰含量は多い。

B 植生及び利用状況

主に馬鈴薯、デントコーン、ビート、アスパラガス、エン麦等に利用。

C 地力保全上の問題点

保肥力を高めるため良質粘土の客入、有機物の施用等が必要である。また磷酸の固定力が極めて大きいので、土壤改良資材として磷酸を投入することが大事と思える。塩基として特に苦土、加里を多く施用するように考慮すべきと思える。

D 分 布

勇払郡穂別町仁和に分布

記載責任者 水元秀彰(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

3. 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

保全対策地区名	該当土 区	面 積 (h a)	主 な 特 徴	重 要 な 保 全 対 策
富 内 (水田)	富 内一富 内 稲台北一稲台北 二 俣一二 俣 豊 田一豊 田 和 泉一和 泉 安 住一安 住	6 0 7 . 0	腐植が少なく水稲においてやや凋落傾向を示す	1. 深耕、心土耕 2. 堆肥、素ワラの施用 3. 健苗育成 4. 土壤改良資材(珪カル磷酸)の施用
和 泉 南 (水田)	和泉南一和泉南 東雲西一東雲西 穂別南一穂別南 豊田東一豊田東	3 3 9 . 0	砂層、礫層が表層近くに出現し、表土の土性もやや粗く、養分の保持力が弱い	1. 客土(良質粘土) 2. 排水(1部) 3. 有機物施用 4. 土壤改良資材の投入
仁 和 西 (水田)	仁和西一仁和西 豊田西一豊田西 栄 東一栄 東 富内南一富内南	1 8 1 . 0	やや地下水位が高いため水稲の初期生育が悪く、生育遅延となる	1. 排水 2. 深耕 3. 完熟堆肥の施用 4. 土壤改良資材の投入
隆 農 南 (畑)	隆農南一隆農南 隆 農一隆 農 平 丘一平 丘	3 9 6 . 0	表土の土性が極めて粗く、また表土直下に浮石礫層が出現し、根の侵入の障害となつている。	1. 深耕による混層耕又は心土肥培 2. 有機物施用 3. 土壤改良資材の施用
稲 里 (畑)	稲 里一稲 里 富内西一富内西	1 0 6 . 0	土性がやや粗く、養分の保持力が弱い	1. 深耕 2. 有機物施用 3. 土壤改良資材の投入
和 泉 下 (畑)	和泉下一和泉下 仁和下一仁和下 似湾沢一似湾沢 仁 和一仁 和	4 4 7 . 0	表土の土性が極めて粗く、表土直下から砂礫層がかなり深くまで存在するため、養分の流亡が大きく、過干の恐れが極めて大きい	1. 有機物施用 2. 粘土客土 3. 土壤改良資材の投入

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
豊田南 (畑)	豊田南一豊田南 二俣南一二俣南	58.0	磯が表土に含まれており、下層は砂礫層で、かなり透水も大きく、耕起における機械の消耗も高い。	1. 有機物施用 2. 土壌改良資材の投入

2) 保全対策地区説明

富内保全対策地区

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区名)
勇払郡穂別町	607.0	富内一富内、稲台北一稲台北、二俣一二俣、豊田一豊田、和泉一和泉、安住一安住

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

この対策区の特徴は有効土層が浅い所で48cm内外、深くて1m以上であり、腐植含量が2～3%であり少ないのが特徴である。土性はLiCが主であり、排水が良く乾燥型となつている。水稻栽培が主であり、その生育は良好であるが、生育後期に肥料切れが目立ち、即ち凋落傾向を示すものが多い。対策として根圏域を拡げ、養分の供給をより円滑にすることが必要であり、そのために約30cm程度の漸次深耕が必要である。凋落傾向の防止のために、堆肥、素ワラ等の有機物、又は緩効性肥料の施用が良く、素ワラは春鋤込みよりも秋鋤込みの方が水稻の初期生育に良い。素ワラは10a当り400kgが適当である。またこの地帯の気候から見て、水稻の茎葉がかなり軟弱に見られ、倒伏の恐れが高いため、珪カル施用をおこなうことが良い。この場合水稻の初期生育がやや遅れ気味になるため、磷酸の施肥料を増すことが必要である。珪カルは10a当り150～200kgが適当である。

② 営農の方向、その他

安全確保と経営の安定が特に必要である。用排水の完備、品種の選択、施肥法の改善、健苗の導入等により安定した水稻栽培をおこなうべきである。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
深耕	全区607.0	約30cm漸次深耕	深耕 ブラウ トラクター
有機物施用	" 607.0	堆肥の施用、素ワラの施用	素ワラ10a当り400kg
珪カル施用	" 607.0	融雪期又は融雪後撒布	珪カル10a当り150～200kg

和泉南保全対策区

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区名)
勇 払 郡 穂 別 町	3 3 9.0	和泉南一和泉南、穂別南一穂別南、東雲西一東雲西、豊田東一豊田東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

この対策区の特徴は主に表土の土性が粗く、下層が礫層又は砂層になつており、漏水が大きく、養分の溶脱が大きいことである。また一部地下水位が高い区も含めた。

表土の土性が粗く、保肥力が弱いので良質粘土資材の投入（ゼオライト、ベントナイト）粘土客土等の対策が必要である。また同時に排水の悪い地区においては暗渠排水の完備が大事である。養分の溶脱が大きいので塩基の補給が必要であるが、この地帯は稲の茎葉が軟弱なので、この点を考慮し、珪カルよう磷等の資材の投入により塩基の補給にあたるのがよい。珪カルは初年目150～200kg/10a当り、ようりん初年目100kg/10a当り程度施用し、2年目からは珪カルは漸次減らし、ようりんは普通施肥料の量にまでにしてもよい。この地区は一般に窒素地力が低いので、調落傾向があり、堆肥素ワラ等の有機物の施用が必要である。素ワラは秋鋤込みとして、10a当り400kg程度が適当と思える。窒素の持続効果が見られる緩効性肥料使用の場合は窒素施用量の1/2程度にとどめておくのが安全と思える。

② 営農の方向、その他

安全確保が必要であり、用排水完備、健苗の導入により安定した栽培の確立が必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
1.客 土	全区 3 3 9.0	粘土含量の比較的高いもの、 磷酸固定力の小さいもの	事業費の助成
2.排 水	和泉南一和泉南 1 6.0	暗渠排水、渠深1m、渠間 1.4m程度	工事費の助成
3.有機物施用	全区 3 3 9.0	堆肥の施用、素ワラの施用	素ワラ300～400kg/10a
4.土壌改良資材の投入	全区 3 3 9.0	ゼオライト、ベントナイト、 ようりん	珪カル150kg/10a、ようりん100kg/10a

仁 和 西 保 全 対 策 地 区

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
勇 払 郡 穂 別 町	1 8 1.0	仁和西一仁和西、豊田西一豊田西、栄東一栄東、富内南一富内南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

やや排水が悪く、湿性型の土壌である。このため水稲栽培においては初期生育が悪く、秋まさり型になり、登熟不良、倒伏の恐れが大きく、冷害に対しても大きな影響をうける。このため排水がまず必要

であり、暗渠排水の完備が大事である。ついで約20～30cm程度漸次深耕をおこない、養分の供給を助け、さらに塩基等の補給をおこなうのがよい。

② 営農の方向、その他

安定確収が必要であり、そのために品種の確立、施肥の改善、健苗の育生等が必要である。

(2) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
1.排水	全区181.0	暗渠排水、渠深1m、渠間14m	工事費の助成
2.深耕	" 181.0	漸次30cm程度に深耕	深耕プラウ トラクター
3.土壌改良資材の投入	" 181.0	ゼオライト、ペントナイト、珪カル、ようりんの施用	珪カル150kg/10a、ようりん50～100kg/10a
4.有機物施用	" 181.0	完熟堆肥	

隆農南保全対策地区

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考(該当土壌区名)
勇払郡樺別町	396.0	隆農南-隆農南、隆農-隆農、平丘-平丘

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

上層には主に砂層からなる火山灰が堆積し、下層には細粒で腐植含量が多く、保水性、保肥力の高い火山灰層が存在する。しかし、この火山灰層は化学的には、リン酸の固定力が大きく植物生育にはあまり良くない。したがって保水性、保肥力を高めるために約40cm程度の混層耕をおこない土層の均一化をはかること。この場合、石灰、ようりんなどの土壌改良資材の投入並びに堆肥の施用が必要である。一方、混層耕以外では心土肥培をおこなうことがよい。下層の火山灰層に石灰、りん酸資材を与えて改善する方法も考えられる。

② 営農の方向

アスパラガス等などの比較的安定な換金作物の導入により経営の安定につとめるべきである。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1.深耕による混層又は心土肥培	全区396.0	混層後2～3年は30cm程度の深耕をおこない表層のムラをなくする	トラクター 深耕プラウ
2.有機物施用	全区396.0	堆肥施用、麦稈等の素ワラの鋤込み	麦稈400～500kg/10a
3.土壌改良資材の投与	全区396.0	石灰、ようりん、ペントナイト、ゼオライト、粒状固形肥料の利用	石灰100kg/10a、ようりん80～100kg/10a、ペントナイト200kg/10a

稲里保全対策地区

(1) 分 布

郡市町村名	面積 (h a)	備 考 (該当土壌区名)
勇払郡 穂別町	1 0 6.0	稲里一稲里、富内西一富内西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全の問題点

① 特徴と問題点

全層土性がやや粗く、養分の保持力が弱い。このために良質粘土等の投入により保持力を高める必要がある。

② 営農方向

土壌の改良をおこない、ビート、アスパラガス等の安定作物の導入により経営の安定をはかるべきである。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
1.深 耕	全区106.0	30～40cmの深耕	深耕プラウ、トラクター
2.土壌改良資材の投入	全区106.0	深耕後、物理、化学的性質改善のために必要 特に保肥力を高めるためにゼオライト、ペントナイト等の粘土資材の投入が必要	土壌改良資材 石灰100kg/10a、ようりん80～100kg/10a ペントナイト200kg/10a
3.堆厩肥の施用	全区106.0	堆厩肥、緑肥の施用、麦稈等の鋤込み	麦稈400～500kg/10a

和泉下保全対策地区

(1) 分 布

郡市町村名	面積 (h a)	備 考 (該当土壌区名)
勇払郡 穂別町	4 4 7.0	和泉下一和泉下、仁和下一仁和下、似湾沢一似湾沢、仁和一仁和

(2) 保全対策地区の地力保全上の問題点

表土の土性が極めて粗く、また下層が砂礫層のため、透水性が大きく、保水力も小さい。このため過干の恐れが大きく、養分の流亡も大きい。ある地区では50cm以下に埋没層があり、混層耕により埋没層を混層することにより保水力、保肥力を高めることが考えられるが、かなり埋没層が下層なためその効果はかなり疑問である。むしろ良質粘土の客入により保肥力を高め、有機物施用により保水力を高める必要がある。

② 営農の方向

土壌の改良をおこないビート、アスパラガス等の安定作物の栽培により経営の安定化をはかるべきである。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1.粘土客土	全区 4 4 7.0	粘土含量がやや高く、りん酸固定力の小さいもの	事業費の助成 麦稈 4 0 0 ~ 5 0 0 kg / 1 0 a
2.土壌改良資材の投入	全区 4 4 7.0	ベントナイト、ゼオライト、石灰、りん酸の施用	
3.有機物施用	全区 4 4 7.0	堆厩肥、緑肥の施用、麦稈等の素ワラの鋤込み	

豊田南保全対策地区

(1) 分布

都市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区名)
勇払郡穂別町	5 8.0	豊田南一豊田南、二保南一二保南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全の問題点

① 特徴と問題点

角礫、半角礫が表土に含まれ、下層は砂礫層で、透水性がよい。

② 土壌の改良をおこない安定作物の栽培により経営の安定をはかる。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1.有機物施用	全区 5 8.0	堆厩肥、緑肥	ベントナイト 2 0 0 kg / 1 0 a
2.土壌改良資材	全区 5 8.0	ベントナイト、ゼオライト、石灰、リン酸	

4. 調査成績一覧

2) 土壌分析成績

保全 対策区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性										化 学 性																				
						風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における理化学性 100cc 液中				孔 隙 率 %	PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 置 換 容 量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	乾 土 効 果	30°C NH ₃ -N 発生量		有効態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc		H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
						分	値	砂	砂	計	ト	土	重	積	積	積	積	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	容	
和 南	泉	5	1	0~16		2.9	2.8	59.5	18.9	78.4	13.3	8.3	S L					6.20	5.15	0.30	1.67	0.14	12	10.5	156.9/5.6	47.8/2.4	4.2/0.1	79.5	793	0.7	2.1	1.4	13.4		0.93	
				16~21		0.5	2.9	70.6	20.6	19.2	2.9	5.9	L S					6.15	5.15	0.30	1.69	0.15	12	4.8	75.4/2.7	0.2/0.01	1.8/0.04	58.0	566	3.6	5.1	1.5	15.1		0.40	
				21~32		0.1	—	87.9	7.1	95.0	1.8	3.2	S					6.45	5.60	0	—	—	—	5.1	15.4/0.6	37.2/1.9	7.0/0.2	50.1	320	—	—	—	18.4		—	
				39~54		7.9	15.3	31.8	30.0	61.8	18.0	20.2	SCL					5.95	4.85	0.60	9.63	0.69	16	44.7	495.0/17.7	54.3/2.7	7.3/0.2	49.9	2322	—	—	—	1.1		—	
泉 南	穂 別 南	24	1	0~15		2.7	1.4	20.7	53.5	74.2	13.2	12.6	S L					6.65	5.45	0	0.83	0.09	9	10.0	82.6/3.0	135.1/6.7	8.1/0.2	100.9	699	4.9	5.6	0.7	11.5		1.23	
				15~22		2.1	1.3	24.3	52.0	76.3	15.5	8.2	S L					7.05	5.85	0	0.77	0.07	11	9.7	80.3/2.9	141.4/7.0	6.3/0.1	105.3	685	5.0	5.7	0.7	10.2		1.23	
				40~66		4.4	2.3	1.0	36.9	37.9	39.7	22.4	C L					7.15	5.85	0	1.39	0.16	8	22.1	184.8/6.6	343.1/7.1	5.0/0.1	112.5	1144	—	—	—	8.2		—	
東 雲 西	28	1	0~15		1.6	1.5	42.6	42.7	85.3	4.9	9.8	L S					6.85	5.75	0	0.88	0.07	12	8.7	57.5/2.1	134.8/6.7	4.8/0.1	103.7	654	0.8	2.5	1.7	19.0		1.02		
			15~21		1.7	2.1	40.5	32.2	72.7	12.7	14.6	S L					6.65	5.65	0	1.24	0.14	9	12.4	107.1/3.8	133.3/6.6	0.9/0.1	86.7	774	0.9	2.8	1.9	14.0		1.12		
			21~30		0.4	2.1	61.4	26.5	87.9	5.9	6.2	L S					7.15	6.25	0	1.22	0.36	—	7.1	85.5/3.1	75.5/3.8	2.2/0.04	96.6	554	—	—	—	14.6		—		
			46~60		3.3	3.1	22.8	18.3	41.1	56.1	2.8	SiL					6.95	5.75	0	1.86	0.21	9	22.4	189.4/6.8	249.4/2.4	14.9/0.3	89.9	1024	—	—	—	5.0		—		
豊 田 東	13	1	0~10		2.5	1.4	32.3	41.1	73.4	11.1	15.5	SCL					6.85	5.65	0	0.83	0.07	12	13.3	107.4/3.8	189.7/9.4	8.6/0.2	104.1	707	3.1	4.1	1.0	13.5		1.33		
			10~15		2.1	1.3	33.7	41.1	74.8	9.1	16.1	SCL					7.05	5.75	0	0.77	0.09	8	12.4	102.1/3.6	145.7/7.3	6.5/0.1	90.9	694	2.7	4.9	2.2	11.8		1.12		
仁 和 西	栄 東	30	1	0~10		2.2	3.4	34.6	27.0	61.6	18.4	20.0	SCL					5.75	4.55	1.25	2.01	0.18	11	14.0	150.2/5.4	55.0/2.7	3.8/0.1	59.6	897	1.2	4.1	2.9	7.6		1.84	
				10~18		2.0	3.3	32.8	24.5	57.3	24.1	18.6	C L					5.94	4.70	0.60	1.95	0.17	12	15.1	159.7/5.7	60.9/3.0	3.1/0.1	59.5	947	6.8	8.5	1.7	8.6		2.04	
				18~26		2.3	3.5	34.2	29.2	63.4	20.3	16.3	C L					6.15	4.85	0.30	2.08	0.16	13	14.4	152.5/5.5	72.7/3.6	2.9/0.1	65.0	918	—	—	—	6.0		—	
豊 田 西	仁 和 西	31	1	0~15		2.6	4.1	16.5	31.0	47.5	34.2	18.3	C L					5.70	4.75	0.60	2.44	0.24	10	18.3	246.7/8.8	188.3/9.4	8.0/0.2	103.0	966	5.5	6.6	2.1	12.6		1.64	
				15~22		2.7	3.5	18.2	31.8	50.0	31.8	18.2	C L					6.30	5.50	0	2.09	0.19	11	18.6	208.1/7.4	161.4/8.0	7.7/0.2	86.5	958	4.5	10.5	6.0	11.4		1.85	
				22~26		2.7	3.3	3.1	50.3	53.4	32.1	14.5	L					6.55	5.75	0	1.96	0.17	11	20.8	234.0/8.4	218.4/0.9	6.2/0.1	95.5	967	—	—	—	10.0		—	
				26~42		4.1	6.2	32.9	11.1	44.0	33.8	22.2	C L					6.35	5.55	0	3.75	0.22	17	23.9	230.1/8.2	241.3/2.0	6.0/0.1	89.0	953	—	—	—	3.8		—	
富 内 南	20	1	0~15		2.1	1.9	42.6	36.4	79.0	11.1	9.9	S L					5.55	4.20	5.00	1.12	0.12	9	10.8	324.8/11.6	17.2/0.9	17.7/0.4	121.3	639	7.2	8.6	1.4	36.8		0.82		
			15~20		2.2	1.7	43.5	35.3	78.8	12.8	8.4	S L					5.75	4.45	1.88	1.01	0.11	9	10.6	127.9/4.6	22.2/1.1	14.1/0.3	57.8	645	4.6	5.6	1.0	24.7		1.02		
			23~40		3.7	—	1.8	56.5	58.3	27.9	13.8	L					5.95	4.65	0.94	0.48	0.10	5	15.6	266.5/9.5	53.0/2.6	18.9/0.4	83.7	902	—	—	—	6.0		—		
富 内 南	36	1	0~12		2.8	3.3	44.9	12.4	57.3	16.1	26.6	S C					5.55	4.35	2.50	1.97	0.22	9	15.7	158.8/5.7	44.5/2.2	5.2/0.1	52.3	846	5.7	7.6	1.9	5.9		1.85		
			12~17		2.7	3.2	49.7	9.5	59.2	17.9	22.9	SCL					5.60	4.45	1.88	1.91	0.22	9	15.6	148.8/5.3	40.9/2.0	3.6/0.1	48.9	967	8.9	11.1	2.2	5.6		1.85		
			31~47		6.8	5.9	5.8	9.3	15.1	38.7	46.2	H C					5.45	4.35	2.09	3.67	0.38	10	46.6	407.1/14.5	179.4/8.9	14.8/0.3	54.8	1415	—	—	—	4.1		—		

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性										化 学 性																					
					礫 (風乾物中) %	風乾土中		細土無機物中					土性	現地における理学性 100CC. 容中					PH		置換酸度 Y ₁	有機物			塩置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	乾土効果	30°C NH ₃ -N 発生量		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
						水	腐植	粗砂	細砂	砂合計	シルト	粘土		容積重g	固相容積cc	水分容積cc	空気容積cc	孔隙率%	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾土	湿土	P ₂ O ₅	N	
						分%	%	%	%	%	%	%										%	%	%												
富内	37	1	1	0~15	2.0	3.1	60.9	13.2	74.1	13.6	12.3	S L						5.65	4.75	0.60	1.84	0.19	10	15.0	118.0/4.2	59.9/3.0	11.1/0.2	50.6	675	10.7	12.9	2.2	34.8		0.82	
				15~22	2.1	3.7	59.7	12.7	72.4	19.2	8.4	S L							6.35	5.25	0.30	2.20	0.17	13	15.2	168.1/6.0	46.6/2.3	11.2/0.1	56.5	768	8.7	9.1	0.4	15.3		1.12
				30~37	4.8	6.6	19.5	19.9	39.4	34.0	26.6	LiC							6.25	5.20	0.30	4.02	0.33	12	32.7	404.0/14.4	166.9/8.3	18.1/0.4	74.3	1,147	—	—	—	6.0		—
				37~44	4.5	2.3	1.0	19.2	20.2	42.6	37.2	LiC							6.35	5.05	0.30	1.39	0.17	8	25.3	309.3/11.1	192.8/9.6	19.1/0.4	87.2	1,004	—	—	—	4.6		—
内保	27	1	1	0~13	1.6	2.1	43.9	34.2	78.1	12.2	9.7	S L						6.25	4.95	0.30	1.24	0.11	12	9.4	79.4/2.8	144.2/7.2	3.2/0.1	108.7	636	4.9	7.1	2.2	18.5		1.02	
				13~19	1.5	1.7	49.8	30.6	80.4	10.6	9.0	S L							6.65	5.45	0	1.00	0.09	12	8.7	76.2/2.7	87.3/4.3	5.6/0.1	83.9	571	5.9	6.6	0.7	14.8		0.41
				19~25	4.1	4.6	14.1	36.9	51.0	23.9	25.1	LiC							6.55	5.45	0	2.78	0.23	12	26.2	272.8/9.7	274.6/13.7	14.5/0.3	94.5	1,141	—	—	—	4.0		—
				25~37	10.3	7.5	3.2	34.2	37.4	33.4	29.2	LiC							6.55	5.45	0	4.85	0.36	13	38.0	331.2/11.8	403.4/20.1	13.5/0.3	94.4	1,461	—	—	—	2.4		—
				37~45	3.8	3.9	1.5	56.1	57.6	2.0	40.4	S C							6.55	5.45	0	2.35	0.08	—	26.5	183.2/6.5	323.0/16.1	12.1/0.3	89.7	1,203	—	—	—	2.8		—
稲台北	38	1	1	0~10	4.0	4.2	30.8	23.5	54.3	25.9	19.8	C L						5.80	4.45	1.88	2.54	0.26	10	17.6	203.1/7.3	21.8/1.1	7.0/0.2	50.2	1,213	0.9	3.8	2.9	14.0		2.19	
				10~17	4.3	3.7	24.3	28.9	53.2	28.1	18.7	C L							6.10	4.75	0.60	2.25	0.24	9	18.7	261.4/9.4	26.9/1.3	6.4/0.1	60.5	1,322	3.4	4.6	1.2	9.2		1.36
				17~31	4.7	1.8	9.1	21.0	30.1	40.5	29.4	LiC							6.15	4.90	0.30	1.09	0.11	10	23.5	413.6/14.8	66.6/3.3	13.4/0.3	82.1	1,100	—	—	—	3.8		—
豊田	16	1	1	0~14	4.2	3.4	9.4	30.9	40.3	33.2	26.5	LiC						6.75	5.35	0.30	2.06	0.18	12	22.6	253.2/9.0	193.1/9.6	13.5/0.3	87.3	1,086	0.8	2.8	2.0	14.0		1.67	
				14~23	3.1	2.0	15.7	28.8	44.5	26.8	28.7	LiC							6.95	5.85	0	1.20	0.13	9	17.2	226.3/8.1	168.9/8.4	17.3/0.3	100.5	962	3.2	3.8	0.6	13.2		1.55
				23~50	4.5	2.3	1.5	19.0	20.5	44.4	35.1	LiC							7.05	5.85	0	1.39	0.15	9	24.6	343.9/12.3	255.5/12.7	15.2/0.3	107.6	1,183	—	—	—	9.2		—
和泉	10	1	1	0~13	1.3	1.7	23.6	49.4	73.0	13.5	13.5	S L						6.50	5.25	0.30	1.00	0.16	7	10.3	109.5/3.9	141.3/7.0	6.6/0.1	109.4	762	5.3	6.6	1.3	13.6		1.32	
				13~21	2.7	1.5	20.7	43.9	64.6	13.5	21.9	SCL							7.00	5.80	0	0.89	0.09	10	12.2	156.4/4.9	168.0/8.4	8.6/0.2	113.2	792	4.0	5.1	1.1	9.3		1.44
				21~30	3.9	2.3	16.5	23.7	40.2	35.2	24.6	C L							6.95	5.90	0	1.38	0.42	—	22.5	201.7/7.2	253.2/12.6	9.9/0.2	92.7	1,034	—	—	—	8.7		—
				30~36	1.8	1.4	41.0	35.6	76.6	11.8	11.6	S L							6.55	5.95	0	0.82	0.08	10	10.7	101.8/3.6	107.2/5.3	4.9/0.1	86.1	1,582	—	—	—	12.0		—
				36~48	3.4	1.3	16.5	45.9	62.4	19.6	18.0	SCL							7.05	5.75	0	0.78	0.10	8	21.6	171.0/6.1	239.7/11.9	10.6/0.2	87.3	1,899	—	—	—	7.7		—
安住	35	1	1	0~10	2.7	3.3	61.8	15.5	77.3	17.2	5.5	S L						5.95	5.05	0.30	1.96	0.22	9	11.0	93.8/3.4	3.9/0.2	4.3/0.1	33.5	967	2.9	4.6	1.7	25.9		0.82	
				10~15	2.9	4.1	55.9	18.6	74.5	19.2	6.3	S L							5.65	5.05	0.30	2.45	0.23	11	9.7	84.2/3.0	6.8/0.3	3.0/0.1	36.2	1,083	8.8	12.1	3.3	16.7		0.82
				20~40	3.0	2.1	18.8	39.1	57.9	27.3	14.8	L							5.65	4.75	0.60	1.26	0.17	8	13.8	173.8/6.2	22.4/1.1	8.0/0.2	56.0	1,128	—	—	—	2.1		—

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性											化 学 性																
					礫 (風乾物中) %	風乾 細土中		細土無機物中					土 性	現地における理学性 100cc 容中					P H		置換 酸度 Y ₁	有 機 物			塩置換 容量 mg/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				
																																CaO
和泉下	和泉下	127	1	0~22		1.3	2.5	84.9	8.3	93.2	5.8	1.0	S	116.4	41.5	9.0	49.5	58.5	6.25	5.15	0.30	1.47	0.14	11	7.8	96.4/3.4	4.1/0.2	3.3/0.1	44.2	591	14.1	
	仁和下	133	1	0~23		0.5	2.0	85.6	10.2	95.8	2.2	2.0	S	111.2	41.8	21.2	37.0	58.2	5.80	4.25	0.60	1.17	0.12	10	5.2	18.3/0.7	26.3/1.3	10.0/0.2	12.6	467	18.1	
			4	54~69		6.1	10.5	12.9	37.7	50.6	39.6	9.8	L	—	—	—	—	—	5.95	5.10	0.30	6.49	0.64	10	31.6	199.2/7.1	48.8/2.4	15.1/0.3	22.5	2,576	tr	
	泉下	似湾沢	137	1	0~22		0.5	2.8	84.8	8.6	93.4	4.4	2.2	S	—	—	—	—	—	6.25	5.35	0.30	1.63	0.15	11	7.4	121.0/4.3	9.7/0.5	2.8/0.1	58.5	397	27.7
		仁和	142	1	0~15		0.1	5.2	85.1	6.5	91.6	5.1	3.3	S	—	—	—	—	—	6.10	5.50	0.30	3.02	0.20	16	12.6	280.3/10.0	8.9/0.4	4.7/0.1	79.5	2,167	—
				4	54~65		6.5	8.6	26.6	28.7	55.3	28.8	15.9	CL	—	—	—	—	—	6.35	5.15	0.30	5.35	0.44	12	30.2	305.9/10.9	29.4/1.5	34.2/0.7	36.1	2,274	tr
5				65~82		9.4	—	19.3	49.5	68.8	26.3	4.9	SL	—	—	—	—	—	6.25	5.20	0.30	—	—	—	33.1	204.0/7.3	26.2/1.3	19.8/0.4	22.0	2,698	tr	
6	82~		7.5	—	17.5	47.2	64.7	28.9	6.4	L	—	—	—	—	—	6.35	5.35	0.30	—	—	—	20.6	91.7/3.3	22.4/1.1	13.2/0.3	15.9	2,406	tr				
豊田南	豊田南	125	1	0~15		2.6	3.1	43.2	21.4	64.6	20.8	14.6	L	112.1	46.1	19.9	34.0	53.9	5.35	4.60	0.60	1.85	0.14	13	17.1	277.5/9.9	60.9/3.0	33.4/0.7	58.0	740	16.0	
			2	15~25		2.3	1.8	52.3	17.6	69.9	13.3	16.8	SCL	116.9	46.2	21.3	32.5	53.8	5.95	4.80	0.30	1.07	0.12	9	15.5	264.9/9.5	51.5/2.6	20.3/0.4	61.1	719	13.9	
	二俣南	118	1	0~15		2.2	1.9	36.0	27.9	63.9	13.7	2.2	SCL	116.0	45.2	15.8	39.0	54.8	5.85	4.70	0.60	1.13	0.13	9	15.2	266.3/9.5	38.6/1.9	11.8/0.3	62.5	2,136	24.1	
2	15~26			2.4	1.6	35.4	28.8	64.2	20.5	15.3	CL	—	—	—	—	—	5.85	4.70	0.60	0.95	0.11	9	14.8	272.7/9.7	36.3/1.8	11.6/0.3	65.7	598	22.1			

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深 cm	理 学 性											化 学 性															
					礫 (風乾物中) %	風 乾 細土中		細土無機物中					土 性	現地における理学性 100cc 容中					PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 置 換 容 量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
隆 農 南	隆 農 南	101	1	0~27		0.5	2.3	75.6	18.8	94.4	4.3	1.3	S					6.15	5.05	0.30	1.34	0.11	13	6.5	82.7/3.0	9.7/0.5	2.4/0.1	45.6	446	27.3	
			3	30~40		6.3	11.5	42.8	21.3	64.1	28.1	2.8	L					6.15	5.05	0.30	7.12	0.65	11	34.6	412.3/14.7	21.5/1.1	11.1/0.2	42.6	2,164	tr	
			4	40~55		4.2	8.3	61.1	21.0	82.1	14.9	3.0	S L					6.05	5.05	0.30	5.02	0.43	12	21.8	158.7/5.7	16.4/0.8	4.4/0.1	26.0	1,765	tr	
			5	55~70		10.8	17.1	33.3	28.8	62.1	30.1	7.8	L					5.85	4.85	0.30	11.12	0.90	12	55.4	269.6/9.6	96.9/4.8	15.3/0.3	17.4	2,839	tr	
	隆 農 南	隆 農 南	102	1	0~16		0.9	3.0	89.0	6.0	95.0	2.7	2.3	S					6.15	5.20	0.30	1.76	0.13	14	6.8	107.4/3.8	77.7/0.4	3.3/0.1	56.4	505	10.9
				3	25~31		5.2	11.4	46.1	24.0	70.1	22.0	7.9	S L					6.20	5.20	0.30	6.97	0.44	16	37.6	568.7/20.3	38.2/1.9	8.5/0.2	54.0	2,140	tr
				4	31~56		5.8	6.6	41.7	43.9	85.6	12.1	2.3	L S					6.35	5.35	0.30	4.07	0.34	12	14.2	226.6/8.1	17.1/0.9	3.0/0.1	57.1	2,080	tr
		平 丘	114	1	0~15		1.8	5.2	75.3	9.3	84.6	8.5	6.9	S L					6.15	5.15	0.30	3.07	0.24	13	14.1	168.2/6.0	16.4/0.8	3.4/0.1	42.8	855	11.0
				3	20~35		6.1	13.7	44.1	20.1	64.2	23.1	12.7	L					6.15	5.15	0.30	8.47	0.74	11	41.6	502.5/18.0	39.8/2.0	4.0/0.1	43.1	2,265	tr
				4	35~50		4.0	4.6	63.0	22.4	85.4	9.9	4.7	L S					6.40	5.35	0.30	2.78	0.28	10	14.5	112.3/4.0	19.5/1.0	1.0/0.02	27.6	1,801	tr
			5	50~69		5.4	10.3	30.9	36.1	67.0	28.9	4.1	S L					6.45	5.35	0.30	6.31	0.57	11	28.9	245.7/8.8	21.3/1.1	1.0/0.02	30.3	2,688	tr	
稻 里	稻 里	105	1	0~17		2.4	6.5	48.2	30.7	78.9	12.8	8.3	S L					5.85	4.70	0.60	3.86	0.35	11	17.3	144.7/5.2	19.0/0.9	9.2/0.2	29.9	1,165	13.1	
			2	17~30		5.4	6.2	59.1	20.8	79.9	18.4	1.7	S L					6.25	5.25	0.30	3.81	0.45	9	18.8	140.3/5.0	11.9/0.6	8.0/0.2	26.6	2,050	8.9	
			3	30~43		10.4	8.7	42.9	36.0	78.9	20.7	0.7	S L					6.25	5.30	0.30	5.64	0.52	11	29.5	245.0/8.8	20.6/1.0	8.9/0.2	29.7	1,501	tr	
			4	43~60		12.4	—	26.2	58.6	84.8	11.7	3.5	S L					6.20	5.40	0	—	—	—	39.4	245.6/8.4	22.5/1.1	7.5/0.2	22.3	2,858	tr	
			5	60~		13.1	—	29.2	32.1	61.3	32.0	6.7	L					6.35	5.50	0	—	—	—	34.2	176.0/6.3	61.5/3.1	23.9/0.5	18.4	2,834	tr	
		富 内 西	116	1	0~20		1.5	4.4	79.8	10.5	90.3	5.4	4.3	L S					5.95	4.90	0.30	2.59	0.21	12	11.0	112.5/4.0	14.3/0.7	1.9/0.04	36.7	832	15.8
2	20~30			3.9	4.1	58.4	25.1	83.5	15.4	1.1	S L					6.35	5.30	0.30	2.48	0.24	10	14.3	115.1/4.1	9.0/0.5	3.4/0.1	28.7	1,761	tr			
4	40~52			9.2	4.6	56.6	26.6	83.2	14.1	2.7	S L					6.25	4.90	0.30	2.94	0.29	10	27.4	320.0/11.4	28.3/1.4	5.2/0.1	41.7	2,048	tr			